

学生の確保の見通し等を記載した書類（目次）

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析	3
ウ 新設学科等の趣旨目的，教育内容，定員設定等	4
エ 学生確保の見通し	7
オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	13

（２）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	15
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	16

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本学は、医療福祉専門職とその地位の向上を志し、1995（平成 7）年に医療福祉の総合大学として開学した。現在 5 キャンパスに 10 学部 25 学科を擁し、今までに約 3 万人に上る医療福祉専門職を輩出している。また、過去 5 年間の既存学部の就職率は 100% に近い実績となっている。

これまでに医療福祉の現場に多くの卒業生を送り出してきた本学の実績が、この結果に繋がっていると考えている。また、本学は 2005（平成 17）年度に大田原キャンパスに薬学部を開設し、薬学教育を実践しており、2011（平成 23）年度以降で 1576 人の薬剤師を輩出している。就職率もほぼ 100% を維持しており、薬学教育における本学の実績を十分に訴求できていると考えている。

加えて、2020（令和 2）年 4 月には九州の大川キャンパスに福岡薬学部（定員 120 人）を開設した。また、2023（令和 5）年 3 月には医学部の第 1 期生が卒業を迎えた。

薬学部では臨床に強い薬剤師として、医師に対し薬物治療の提案を行え、医師・看護師らとチームで患者さんに対応できる、臨床の現場で活躍する薬剤師を育てている。高度な 6 つの附属病院に加え、臨床医学研究センターとして位置づけられる関連病院・施設を数多く配置し、充実した臨床実習を行っている。

特に、さまざまな医療専門職が協働して治療することを追究し、学科の垣根を越えて実施する関連職種連携教育を行っている。

本学の附属病院や近隣のグループ施設と緊密に連携しながら実習を実施することで、臨床現場に即した知識や技術を実践的に学ぶことができる環境があり、また、国際医療福祉大学の 24 カ国・地域の協定校のなかから 2 週間の海外研修を実施しており、異なる文化や医療福祉を体験し国際的な感覚を磨くことが可能である。

しかしながら、本学成田キャンパスの存する成田市を含む印旛医療圏や、隣接する茨城県の取手・竜ヶ崎医療圏では薬剤師が不足しており、地域の要望に十分応えられていないとはいえない状況がある。二次医療圏内全体で人口当たり薬局数、薬剤師数ともに全国平均を下回るが、特に茨城県稲敷市や千葉県栄町といった地域で顕著である。

（設置の趣旨等を記載した書類（資料 15））

また、「令和 3 年度厚生労働省医薬・生活衛生局総務課委託事業 薬剤師確保のための調査・検討事業 報告書」などに明らかなように、病院薬剤師は全国的に充足していない。

上記調査では、「薬剤師の充足状況に対する認識（充足感）」として、不足していると認識している施設の割合は、病院では 64.8%（「全く足りない」24.7%、「やや足りない」40.1%）、薬局では 41.2%（「全く足りない」5.7%、「やや足りない」35.5%の合計）」とされ、病院では過半数が薬剤師の不足を問題として抱えている旨が明らかにされている。（資料 1）

そのため、医療人としての薬剤師に対する社会的需要に対して応えることは大学としての大きな課題となっている。

大田原キャンパスの薬学部には茨城県からの出願者も多く、最近5年間で見ると平均150人程度となっている。(資料2) 学志願者数推移(一部抜粋)

成田薬学部の設置により、成田市のみならず隣接した市町村、ひいては県外の薬剤師の業態偏在及び地域偏在解消に貢献できるものと考えられる。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

① 全国的な志願状況

日本私立学校振興・共済事業団の調べによる「私立大学・短期大学等入学志願動向」(学部系統別の動向(大学))によると、2022(令和4)年度の薬学系志願者数は76,635人で前年度(73,580人)比104.2%となっている。

2018(平成30)年度～2022(令和4)年度の期間、増減があるものの、志願倍率は2018(平成30)年度8.38倍～2021(令和3)年度6.40倍、2022(令和4)年度6.73倍と6倍を超える状況が続いている。これは、医歯薬保健系の中では医学部の突出した倍率(2018(平成30)年度28.89倍～2022(令和4)年度23.75倍)を除くと歯学系(2018(平成30)年度4.52倍～2022(令和4)年度3.86倍)、保健系(2018(平成30)年度5.40倍～2022(令和4)年度4.65倍)などと比較しても非常に高い水準を維持しており、薬学部志願者の絶対数の多さが確認できた。(資料3)

② 社会的な必要性

私立薬科大学協会発行の「日本私立薬科大学協会だより」には、毎年「私立薬科大学(薬学部)在学生(3年生)出身校都道府県別調 6年制」という調査の結果が公表されている。これによると2022(令和4)年度(大部分が2019(平成31)年度入学生)の全国の私立薬科大学(薬学部)における3年生は、千葉県の高등학교の出身者が516人であることが示されている。このうち、千葉県内の私立薬科大学(薬学部)に在籍している学生は265人(51.4%)、千葉県外の私立薬科大学(薬学部)に在籍している学生は251人(48.6%)である。

また、同年度における茨城県(茨城には国公立の薬科大学(薬学部)がない)の高等学校出身者である3年生210人のうち、茨城県の隣接県である福島県、栃木県、埼玉県、千葉県にある薬学部(薬学部)に在籍する人数は102人(48.6%)、隣接県以外の都道府県の私立薬科大学(薬学部)に在籍する学生は108人(51.4%)である。なお、茨城県の隣接県のうち、千葉県内の私立薬科大学(薬学部)に在籍する学生は60人(28.6%)であった。2021(令和3)年度以前3年間も同様の傾向を示しており、多くの学生が自宅から遠く離れた私立薬科大学(薬学部)で学んでいる状況が続いていることを示している。

上記の状況を考慮すると、千葉県内や茨城県内の薬学系大学志願者にとっては受け皿が不足気味な現状が見受けられ、成田薬学部を設置は、従来なら遠方で学ぶことを余儀なくされていた学生でも地元で学ぶことができる受け皿として、成田薬学部を設置は意義あるものであると考えられる。(資料4)

ウ 新設学科等の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等

(1) 定員設定について

①入学定員の考え方

薬学分野の教育では小人数集団や個人に対する指導が重要になってくることから、十分な指導体制を構築できることが定員数を設定する際の前提となると考えている。成田薬学部では、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載したとおり、教員・カリキュラム・設備など充実した質の高い教育環境を整備できること、近隣の他大学の薬学部の志願者数や入学定員の状況、これまで本学薬学部(栃木県大田原市、入学定員 180 人)及び福岡薬学部(福岡県大川市、入学定員 120 人)で行ってきた専門教育等の実績等を最大限に生かすこととし、その一環として、本学薬学部、福岡薬学部での語学や演習、学内実験・実習等でのクラス分け等も入学定員設定の参考とした。

このように、千葉県の地域性と本学で培った教育上の経験を総合的に判断し、入学定員は 120 人とした。

② 本学既設薬学部、同福岡薬学部の志願者

本学薬学部(大田原キャンパス)では、その実志願者数は、(資料5)のとおり定員 180 人に対して概ね、600 人を超えており、志願倍率は 3 倍以上、同福岡薬学部(大川キャンパス)では定員 120 人に対し、実志願者数は 5~600 人であり、志願倍率は 4~5 倍程度となっている。この状況から本学としては、受験生には本学の薬学教育に対して一定の支持を得られているものと考えている。

立地など諸条件に相違はあるものの、薬剤師国家試験の高い合格率(新卒者合格率は例年 98%程度で受験者数 100 人以上の大学中全国第 1 位)や卒業生の就職状況等もあり、薬学部、福岡薬学部の実績を基盤に新たに薬学教育を行う成田薬学部についても同様に受験生の理解を得られるものと考えている。(資料5)(資料6)(資料7)

(2) 成田薬学部薬学科の趣旨目的・教育内容

1) 趣旨目的

① 「ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析」で述べたように、病院では過半数が薬剤師の不足を問題として抱えている旨が明らかにされている。そのため、医療人としての薬剤師に対する社会的需要に対して応えることは大学としての大きな課題となっている。

- ② また、「イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析」の「② 社会的な必要性」で述べたように、多くの学生が自宅から遠く離れた私立薬科大学（薬学部）で学んでいる状況が続いている。

このような学生が近隣地域で学ぶことができるための受け皿として、成田薬学部の設置は重要な役割を果たすものである。

- ③ さらに本学は、「病気や障害を持つ人も健常な人もお互いに認めあい共に生きる社会の醸成に貢献し、地域医療を支え人々の健康を守る・生活の質を向上させる」という高い志と倫理観をもった薬剤師を育成することとしており、地域保健医療体制整備の意味からも、成田市に薬学部を設置することの意義は大きい。

新設の成田薬学部においては、キャンパスに隣接した地域の中核医療を担う国際医療福祉大学附属成田病院や成田市薬剤師会等の地域の薬剤師会との連携を通じて、薬学教育・研究を地域で実践的に推進すること、多様な場や人をつなぎ活躍できる対人援助能力に優れた薬剤師を養成することにより、成田市のみならず隣接した市町村住民の健康増進に寄与し、未来の社会や地域を見据え、地域の活性化に貢献することも期待される。

- ④ 上記のような背景と本学の実績から、千葉県、特に成田市において薬学部の設置が大いに望まれており、成田薬学部の設置に当たっては、成田市及び成田市薬剤師会から要望書を受け行うものである。

2) 教育内容

本学は、建学以来、病気や障害を持つ人も健常な人もお互いを認めあう「共に生きる社会」の実現を大学の理念に掲げ、また 21 世紀の健康、医療、福祉を担うことができ、広い視野と国際性を身につけた人材の育成を教育目標としている。

また本学は、従前より実践的な専門職教育に全学で取り組んでおり、薬剤師の職能に直結する実習教育を重視し、さらに医療福祉の総合大学であること、関連医療施設及び福祉施設を有していることから多様な場や人をつなぎ活躍のできる医療人の養成を目指し、少人数制での細やかな教育を実践している。

加えて、語り合う体験を通して、様々な人々が共に生活する社会を学生に実感させること、英語による医療コミュニケーションを実践しつつ大学における知識・理論の講義と臨床現場での臨床実習を一体化させることに取り組んでいる。

さらには、本学の多職種連携・協働とチーム医療・チームケアの成熟を目指して、本学では従前より医学部・看護学部・保健医療学部などと連携した独自のカリキュラム、関連職種連携教育を取り入れた教育研究活動に取り組んでいる。

成田薬学部においては、このような本学の特色を生かしつつ、既存の薬学部と同様に、薬学の基礎から臨床応用までの講義、実習・演習を有機的に構成したカリキュラムによる教育に加え、関連職種連携ワークや関連職種連携実習等といった本学の医療

福祉系学部との共通カリキュラムによる対人援助職としての医療人教育を行う。

さらに、本学の関連医療施設及び福祉施設における臨床実習により、高度な専門性を備え、医療人としてチーム医療に貢献できる人間性、社会性、国際性豊かな薬剤師を養成する全人教育を行う。

これらの教育を通じ、成田薬学部においては、単なる知識の詰め込みではない、多職種の卒前段階の教育の水平的な協調を進め、医療人として価値観を共有した薬学教育モデル・コア・カリキュラムの柱である「多様な場や人をつなぎ活躍できる」人材育成を可能とするものである。

上記（１）、（２）より、本学成田薬学部の定員 120 人については十分に確保できている。

（新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠）

本学においては、学生・保護者の負担軽減を図り、学生が安心して勉学に打ち込めるよう、学生納付金の額の抑制や本学独自の奨学金制度により学費の減免措置等を講じている。

現在、本学の薬学部薬学科（栃木県大田原市）及び福岡薬学部（福岡県大川市）の学生納付金は、初年度で 175 万円、6 年間総額で 990 万円である。これは全国私立大学薬学部の平均学費である 1204.7 万円より 200 万円ほど低く、千葉県内の他の私立大学の薬学部薬学科と比較しても最も低い額となっている。成田薬学部においても、学生負担をなるべく抑える考えから、本学既設の薬学部と同様に初年度で 175 万円、6 年間総額で 990 万円とする。（資料 8）

【学生納付金】

（単位：千円）

学年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費	年度合計	6 年間総額
初年度	300	1,100	50	300	1,750	9,900
2 年次以降	—	1,100	230	300	1,630	

上記に加え、学生が安心して勉学に打ち込めるように、本学独自の経済的サポートを多数用意しており、全学的に実施している「特待奨学生特別選抜入試」による学費の減免措置を始め本学独自の多様な奨学金制度を設けている。

また、成田キャンパス公津の杜校舎まで徒歩 5 分の場所に学生寮「公津の杜ハイツ」を設けており、当該学生寮の活用や各種の奨学金制度などを通じ、志がありながら経済的な面で困難を抱えている学生に対する支援に着手に取り組む。

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

2024（令和6）年4月に開設を計画している成田薬学部に対する関心及び進学志向について、成田薬学部が所在する千葉県をはじめ、近隣である茨城県、埼玉県、東京都、及び本学への受験者・入学者が比較的多い神奈川県、静岡県、群馬県、長野県、山梨県の高等学校から、2024（令和6）年度に大学入学時期となる高校2年生に対してアンケート調査を実施した。（資料9）（資料10）

調査対象

○対象となる生徒

2023（令和5）年度高校卒業予定者（現高校2年生）

○対象となる地域

成田薬学部が所在する千葉県をはじめ、近隣である茨城県、埼玉県、東京都、及び本学への受験者・入学者が比較的多い神奈川県、静岡県、群馬県、長野県、山梨県。

○対象となる高等学校

対象地域の高等学校のうち、薬学部進学希望者が一定数存在すると思われる高等学校のうち、調査にご協力いただいた高等学校計231校。

○調査時期

2022（令和4）年10月～11月

○調査方法

アンケート実施の了承が得られた高等学校に対し、配布可能枚数を聞き取りの上、アンケート用紙又は高校側の希望により Web アンケートフォームの URL を送付。各学校の先生方から調査対象の生徒に配布していただいた。アンケート用紙についてはその場で回答・回収、Web アンケートフォームについては空き時間を利用して生徒が個別に回答を直接入力して送信した。

○回答件数

205校 19,743件

○実施主体

学校法人国際医療福祉大学

○結果

（資料11）のとおり

【質問1】にみられるとおり、アンケート回答者の希望進路（複数回答可）は、大学への進学を希望している生徒が87.5%、短期大学への進学を希望している生徒が1.9%、専門学校への進学を希望している生徒が6.9%であった。

以下、大学への進学を希望している生徒（17,266 人）のみを母数として分析する。

大学への進学を希望している生徒の進路希望先（質問 2）は、「医学・歯学・薬学関係」が第一希望者 12.5%（第二希望 6.6%）、「保健医療系（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医学検査など）」では第一希望者 6.3%（第二希望 9.2%）、「看護系」では第一希望者 7.0%（第二希望 3.9%）であった。

4 人に 1 人以上(25.8%)が医療専門職を育成する分野・領域を第一希望と回答しており、高い人気があることがわかる。

医療福祉分野の国家資格に興味があるかの問い（質問 4）では、「医師」について 9.2%、「看護師」は 9.2%、「薬剤師」は 11.8%の生徒が「興味がある」として選択している。薬剤師は医療専門職の中でも最も多くの生徒から「興味がある」との回答を集めており、魅力的な職業であると考えられていることが伺える。

以下、本学への進学を希望する生徒の数を調査するため、質問 1 にて進路として「大学への進学」を選択し、質問 2 にて進路希望先として「医学・歯学・薬学関係」を選択し、かつ、質問 4 にて「薬剤師国家資格に興味がある」と回答している生徒（1,907 人）のみを母数として分析を進める。

回答者に本学成田薬学部リーフレット（資料 10）を読んでもらい、本学成田薬学部についてどのように感じたかを回答してもらう問い（質問 5）では、278 人（14.6%）の生徒が「とても興味をもった」、1,117 人（58.6%）の生徒が「興味をもった」と回答した。

「成田薬学部」への進学を希望するかとの問い（質問 6）に対しては、56 人の生徒が「進学したいと思った」と回答した。また、「併願校の可否によっては進学したいと思った」と回答した生徒が 227 人であり、さらに「進学を検討してみたいと思った」と回答した生徒は 514 人であった。

○試算として

- (1) 質問 6 で「進学したいと思った」生徒（56 人）は、本学への入学を希望する。
- (2) 質問 6 で「併願校の可否によっては進学したいと思った」と回答した生徒のうち、質問 5 において「とても興味をもった」と回答した生徒（65 人）及び「興味をもった」と回答した生徒（153 人）（計 218 人）は、本学にも進学希望があるが、併願している他大学にも同様の希望があり、結果として 2 校から 1 校選ぶと想定し、2 分の 1 を乗じる。
- (3) 質問 6 で「進学を検討してみたいと思った」と回答した生徒のうち、質問 5 において「とても興味をもった」と回答した生徒（126 人）及び「興味をもった」と回答し

た生徒(371人)(計497人)は、関東圏内に既存の国公立大学薬学部が23校、本学成田薬学部を併せて24校あるので、24校から1校を選ぶと想定し、24分の1を乗じる。

と仮定した場合、(2)は109人、(3)は20.7人となり、(1)「進学したいと思った」という生徒56人との合計は185.7人となる。これは定員120人を1.5倍以上上回る数値である。

成田薬学部への進学希望に関する試算の仮定の設定にあたっては、アンケートの結果に基づき本学への関心の高さを考慮した。具体的には(1)「併願校の可否によっては進学したいと思った」と回答した生徒のうち、問6において「どちらともいえない」、「興味はもてなかった」と回答した生徒及び「無回答」の生徒については、併願校の方に進学したい希望が強いと思われるので対象から控除し、「とても興味をもった」、「興味をもった」と回答した生徒は、本学にも進学の希望があるが、併願している他校にも同様の希望があり、結果として2校から1校選ぶと想定し、2分の1を乗じた。また、(2)「進学を検討してみたいと思った」と回答した生徒は、繰り返しになるが関東圏内に既存の国公立大学薬学部が23校、本学成田薬学部を併せて24校あるので、24校から1校を選ぶと仮定し、24分の1が最終的に入学を希望するとして24分の1を乗じた。

上記試算は本学における受験生の動向分析から導き出した仮定であり、普遍性はないと考えるが、本学における経験則から導き出した合理的な判断と考えている。

また、以下に記す福岡薬学部開設時アンケート及び入試結果にみられるとおり、実際の志願者数及び志願倍率は、上記アンケート試算結果における、本学への進学を希望する生徒の数、志願倍率に比べると大きく上回っている。実際の結果に対し、いわば安全マージンとして余裕をもって計算した試算であるといえる。

以下は、本学福岡薬学部開設に際し、同様のアンケートを実施し、上記と同様の試算を行った際の記録である。

① 福岡薬学部開設時アンケート結果(抜粋)

「今回のアンケート(※注 福岡薬学部開設時に本学が実施したアンケート)を通して、「福岡薬学部」の進学を希望するかとの質問(問7)に対しては、109人の生徒が「進学を希望する」と回答した。また、「併願校の可否次第」と回答した生徒が155人であり、さらに「検討する」と回答した生徒は708人であった。

○試算として

(1)「併願校の可否次第」と回答した生徒のうち、問6において「とても興味をもった」「興味をもった」と回答した生徒は、本学にも進学の希望があるが、併

願している他校にも同様の希望があり、結果として2校から1校選ぶと想定し、2分の1を乗じる。

(2) 「検討する」と回答した生徒のうち「とても興味をもった」「興味をもった」と回答した生徒は、九州・山口地区内の既存の薬学部が国公立併せて9校、本学（福岡薬学部）を併せて10校あるので、10校から1校を選ぶと想定し、10分の1を乗じる。

と仮定した場合、(1)は67人、(2)は63人となり、「進学を希望する」と回答した生徒（109人）との合計は239人となる。」

② 福岡薬学部入試結果

2020（令和2）年度（2019（令和元）年度実施）

※開設時

実志願者数：652人

合格者数：352人

入学者数：131人

志願倍率：5.43倍

2021（令和3）年度（2020（令和2）年度実施）

実志願者数：508人

合格者数：310人

入学者数：123人

志願倍率：4.23倍

2022（令和4）年度（2021（令和3）年度実施）

実志願者数：557人

合格者数：313人

入学者数：129人

志願倍率：4.64倍

上記のとおり、福岡薬学部開設時アンケート結果と、実際の福岡薬学部入試結果を比較すると、各年の実績として、すべてアンケート時に試算した入学希望者を大きく上回る実志願者を集める結果となっている。（資料5）

○アンケート協力校以外について

今回のアンケートの実施にあたり、成田薬学部の所在する千葉県をはじめ、近隣である

茨城県、埼玉県、東京都、及び本学への受験者・入学者が比較的多い神奈川県、静岡県、群馬県、長野県、山梨県で進学志向が強く、薬学部進学希望者が一定数存在すると思われる高等学校計 231 校を抽出し、実際には 205 校に協力いただいて上記の結果を得ることができた。

しかしながら、諸般の事情によりご協力いただけなかった 26 校からも協力校同様に受験生は存在すると想定され、同じ比率で受験生予備軍が存在すると仮定するならば $185.7 : x = 205 : 26$ から $x \div 23.5$ と算出され、対象として抽出したがアンケートを実施できなかった高校に 23.5 人の希望者が存在するとみなすことができると考えている。

アンケート対象者から推計した入学希望者（185.7 人）、アンケート対象地域のアンケートを実施できなかった高校からの入学希望者（23.5 人）の合計として 209.2 人の入学希望者が存在すると推計している。

また、今回のアンケートの結果は厳粛に受け止めるが、限定した条件（範囲・期間）での調査に関わらず入学定員を上回る入学希望者を見込むことができた。この結果に安心することなく学生募集に対する一層の努力を惜しまず受験生に周知徹底を図る。

B. 新設学部等の分野の動向

「イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析」の「① 全国的な志願状況」で述べたように、日本私立学校振興・共済事業団の調べによる「私立大学・短期大学等入学志願動向」（学部系統別の動向（大学））によると、2022（令和 4）年度の薬学系志願者数は 76,635 人で前年度（73,580 人）比 104.2%となっている。

2018（平成 30）年度～2022（令和 4）年度の期間、増減があるものの、志願倍率は 2018（平成 30）年度 8.38 倍～2021（令和 3）年度 6.40 倍、2022（令和 4）年度 6.73 倍と 6 倍を超える状況が続いている。歯学系（2018（平成 30）年度 4.52 倍～2022（令和 4）年度 3.86 倍）、保健系（2018（平成 30）年度 5.40 倍～2022（令和 4）年度 4.65 倍）などと比較しても高い水準を維持しており、非常に高い人気、志願者数があるといえる状態にある。（資料 3）

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

リクルート進学総研の「マーケットリポート vol.98(2022 年 6 月号)」によると、南関東地方における 18 歳人口は、2021（令和 3）年度の 301,999 人から若干減少し、2023（令和 4）年には 294,497 人（2021 年（令和 3）年度比 97.5%）、2033（令和 15）年には 290,523 人（2021（令和 3）年度比 96.2%）程度の見通しである。また、成田薬学部が所在する千葉県における 18 歳人口は、2021（令和 3）年度の 54,908 人から、2023（令和 5）年には 53,438 人（2021（令和 3）年度比 97.3%）、2033（令和 15）年には 50,023 人（2021（令和

3) 年度比 91.1%)となり、減少傾向にある。しかしながら、後述のとおり高校卒業者の大学志願率は長期的に安定、増加傾向にあり、18 歳人口の変化幅は学生募集に支障をきたすほどの規模にはないと考えている。(資料 12)

「学校基本調査」によると、大学志願率は全国平均が 2017 (平成 29) 年度の 56.4% から 2021 (令和 3) 年度の 57.8%へと上昇傾向が続いている。千葉県においても、同様に 2017 (平成 29) 年度の 62.0%から 2021 (令和 3) 年度の 62.6%へと上昇している。以上の観点から成田薬学部が所在する千葉県においては、大学志願者数は堅調に推移するものと考えられる。(資料 13)

D. 競合校の状況

(1) 日本私立学校振興・共済事業団の調べによる「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、千葉県内における大学入学定員充足率は、2018 (平成 30) 年度から 2020 (令和 2) 年度において 100%を超えており、2021 (令和 3) 年度は 99.91%、2022 (令和 4) 年度は 97.45%となっている。定員を概ね充足する状況が続いているといえる。(資料 14)

(2) また、日本私立薬科大学協会の調査によると、千葉県内の私立大学薬学部については、一部で定員を充足していない学部があるものの、直近カ年の志願倍率は平均して 7 倍を超える状況にある。加えて、国家試験合格率(新卒・既卒合計)が私立大合計の平均値である 7 割程度以上の大学における定員充足率は 100%前後の状況である。本学既設の薬学部では国家試験合格率(新卒・既卒合計)において同等以上の成果をあげており、これらを勘案すれば、定員の充足について特に懸念される状況にないといえる。(資料 6)

E. 既設学部等の学生確保の状況

成田キャンパスの既設学部の学生確保の状況は(資料 15)のとおりである。

医学部においては、定員 140 人に対して毎年 3000 人前後程度の実志願者数、20 倍以上の志願倍率となっており、毎年定員を充足している。

成田看護学部においては、定員 100 人に対して毎年 400~500 人以上の実志願者数、4~5 倍以上の志願倍率となっており、毎年定員を充足している。

成田保健医療学部においては、2018 (平成 30)、2019 (平成 31) 年度においての定員 240 人に対して実志願者数 619、767 人、2020 (令和 2)、2021 (令和 3)、2022 (令和 4) 年度においては定員 290 人に対して 1109、1101、978 人の実志願者数となっており、志願倍率は 2.58~3.82 倍である。例年定員を充足している状況にある。

上記のとおり、成田キャンパス既設各学部においては十分な志願者を集め、定員を充足している状況にある。すべて十分に定員を充足している状況が続いており、成田薬学部にも

においても同様に十分な志願者を集め、定員を充足することが可能であると考えている。
(資料 15)

F. その他、申請者において検討・分析した事項

「エ 学生確保の見通し」の「A. 学生確保の見通しの調査結果」に述べたとおり、受験対象者へアンケート調査を実施し、本学成田薬学部への十分な志願者が見込めることを明らかにした。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

(1) 学生募集イベントの開催

① 学外イベントの開催

夏頃までをめぐりに成田薬学部の特化した進学説明会を東京都内などで開催する。
この説明会では、成田薬学部に着任予定の本学教員による概要説明のほか、入試相談なども実施する。

② オープンキャンパスでの計画周知と個別相談

成田キャンパスでは毎年3～10月にかけて7～8回のオープンキャンパスを実施している。オープンキャンパスでは、薬剤師を目指す高校生とその保護者に対して、説明会や個別相談、各種展示など、さまざまな形で成田薬学部の特長やアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラムなどの理解を深めてもらうように取り組む。

また、成田薬学部の教育研究活動の基盤となる大田原キャンパスの実績についても紹介し、成田薬学部について具体的なイメージを持ってもらえるように努める。

(2) 教職員による高校訪問

本学では、学生募集を目的として主に高校や予備校・学習塾などへの訪問を担当する職員を採用している。担当職員は本学と高等学校や予備校等とのパイプ役として密接に情報交換を行っている。現在、東日本には、北は青森県から南は静岡県まで19人のスタッフが活動しており、高等学校に足を運び、高大連携事業や本学教員による出張授業など、関係を強化する取組を推進している。令和3年度は延べ4,300校への訪問を実施しており、ウィズコロナが進んだ令和4年度はこれを上回る訪問実績となる見込みである。これらスタッフに教員が同行し、各ポリシーやカリキュラム、実務実習に関して具体的に説明することで、本学の薬学教育の特長についての理解を深めてもらう取組をしたいと考えている。

〈主な業務内容〉

- ・担当する県内の高等学校・予備校を訪問し、本学の取組みや入学試験に関する案内、意見交換等を行い、その結果を報告書にて提出

- ・ 本学の教員が高等学校・予備校を訪問する際の斡旋
- ・ 担当する県内で開催される本学説明会への出席
- ・ 担当する県内の大学・高等学校の進学情報の収集及び本学への報告
- ・ 本学にて開催される会議・式典等への出席
- ・ その他、学生募集に関し、本学が要請した業務

成田薬学部の PR のための高校訪問については、これら専従のスタッフを中心に、成田薬学部設置の目的、特長や入試概要等について説明を行う。

(3) 情報媒体の活用

① パンフレット

成田薬学部に特化したパンフレットを新たに作成する。パンフレットでは、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー及び成田薬学部の特長、入試日程、入学試験の概要等に関する情報等についてわかりやすく説明する。

パンフレットは、本学に対するすべての資料請求者及び全国の高等学校、主要予備校、学習塾等に配布する。

② 本学ウェブサイト・SNS 等の活用

本学ウェブサイトにおいても成田薬学部に関する特設ページを設け、成田薬学部の特長、入試日程、入学試験の概要等に関する情報について、より深く理解してもらうように取り組む。

LINE や Twitter などの SNS についても成田キャンパスで運用しているものを活用し、継続的に情報の発信を行い、関心の維持、向上に努める。

③ 受験雑誌・新聞広告

受験雑誌については、いわゆる「新增設特集」を中心に投稿し、成田薬学部の特長、入試日程、入学試験の概要等に関する情報の周知に努める。

新聞広告については、成田薬学部の進学説明会等と連動し、薬剤師の職業理解、将来性、本学の教育の特長について理解が深まるような内容を掲載していく。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

1) 本学の目的

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深い教養及び総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を育成するとともに、学術文化の向上と国際社会の保健医療福祉に貢献する有能な人材を育成することを目的とする。

2) 教育研究上の目的

成田薬学部は、薬学の分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、十分な知識と技能を有し、薬学の実践を担いうる应用能力及び豊かな人間性を備えた医療人としての薬剤師等の人材を育成することを目的とする。

また、同薬学科は、薬学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、「くすり」に対する専門的な知識と、臨床現場で発揮される高い能力、技術を備え、調剤した「くすり」の適切な説明や薬物療法について、的確なアドバイスができる薬剤師の育成を目的とする。

3) 養成する人物像

成田薬学部は、上記の教育理念、教育目的に則り、学生の適性と質を保証し、薬学全般にわたる幅広く質の高い知識と技能、及び態度を備え、高い倫理観・探究心・向上心を持った薬剤師として、病院や薬局などの医療現場で多様な求めや変化に応え活躍できる薬剤師の養成を目指す。

また、地域における医療等の現状と課題について理解し、チーム医療に携わる多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人としての見識を早くから身につけるために、早期から現場を体験する実習を実施する。さらに、自らの世界観を育むとともに広い見識を持つために、海外研修を実施する。これらにより、千葉県及び隣接する茨城県などの周辺地域はもとより、全国、又は世界において活躍・貢献できる以下の人材の養成を目指す。

ア. 医療人としての薬剤師（チーム医療で医療機関にて活躍できる薬剤師）

- 高度な薬の知識、調剤・製剤技術を有する薬剤師
- 遺伝子治療や再生医療に関する知識を有する薬剤師
- 生物製剤をはじめ、最新の医薬品情報を活用できる薬剤師
- 疾患と薬物療法の関係を理解し、チーム医療の一員として、医師や看護師等

- と連携し病院で活躍できる薬剤師
- 予防医療に貢献できる薬剤師
- 医療の安全を支える薬剤師
- イ. 人間性、社会性、国際性豊かな薬剤師
 - 患者の心の内を理解できる患者本位の医療に貢献する薬剤師
 - コミュニケーション力豊かな薬剤師
 - 国際的（グローバル）視野及び地域的（ローカル）視野を柔軟かつ多角的に
合わせ持った薬剤師
- ウ. 地域医療へ貢献する薬剤師
 - 地域における医療等の現状と課題について理解し、地域医療を支える薬剤師
 - 患者から信頼される「かかりつけ薬剤師」
 - 在宅医療、介護・福祉チームに貢献する薬剤師
- エ. 環境・衛生分野で活躍できる薬剤師
 - 地域の薬事衛生、地域の衛生管理を担う薬剤師
 - 衛生・環境を守る薬剤師
- オ. 最新の医療へ貢献する薬学の専門家
 - バイオテクノロジーを基盤とした新規医薬品の創製に貢献できる人材
 - 専門性豊かな医薬品情報担当者

②上記 ①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 成田薬学部周辺地域（茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県）の薬剤師数の現状

日本医師会が提供している web サイトである JMAP（地域医療情報システム）によると、2020 年度の都道府県別人口 10 万人当たりの薬剤師数は、千葉県は 101.6 人で全国第 30 位、全国平均が 110.6 人であり、県単位で全国平均を下回っている。なお、周辺の茨城県が 97.1 人で全国第 35 位、栃木県が 96.4 人で全国第 36 位、埼玉県では 98.1 人で 32 位となっている。（資料 16）

さらに、千葉県成田市を中心とする千葉県北部（印旛地域）及び隣接する茨城県の県南の市町村においては、薬剤師が不足している地域が多く認められる。（千葉県内について見ると、人口 10 万人あたりの薬剤師の人員数は、全国平均 110.6 人に対し、成田市で 95.5 人、香取市で 93.9 人、富里市で 78.4 人、印西市で 106.2 人となっており、また、近接する茨城県の市町村においても、潮来市で 50.7 人、稲敷市で 56.3 人、河内町で 0.0 人、利根町 32.5 人となっている。）（設置の趣旨等を記載した書類（資料 8））さらに、我が国の総人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合（高齢化率）が 2020（令和 2）年 10 月には約 28.8%となっている中で、成田市においても地区別にみて 15.7%から 42.7%と地域偏在はあるものの、全体では 23%を超える超

高齢社会を迎えている。我が国の高齢化率については、今後もさらに上昇すると見込まれており、特に医療や介護のリスクが高まる 75 歳以上の後期高齢者の割合が高まると推計されている。また、人口が少ない二次医療圏ほど薬剤師 1 人当たりの高齢者人口が多いとされる中においての地域偏在は、高齢者の在宅生活継続の懸念材料となる。

(設置の趣旨等を記載した書類(資料 9) (資料10) (資料11)) (資料17)

2) 千葉県薬剤師養成施設の現状

千葉県の人口 10 万人当たりの 6 年制薬学課程の入学定員数は 13.7 人(全国 9 位)である。他の都道府県と比べると多いといえるが、千葉県下の薬学部設置大学は東京都に近接する地域もしくは千葉県東部に偏在しており、隣接する茨城県には、薬学部設置大学が存在しない。そのため、大田原キャンパスの薬学部においても茨城県からの入学志願者数は、入学定員 180 人の枠に対し平均で 150 人と、例年 100 人を超えている。成田キャンパスにおいては、千葉県内からの入学志願者が多く、既存の成田看護学部については、入学定員 100 人の枠に対し、千葉県内からの入学志願者数が平均で 450 人以上、成田保健医療学部についても入学定員 290 人の枠に対し、千葉県内からの入学志願者数が平均で 790 人となっている。

また、千葉県内の大学志願率は毎年全国平均より高く、2021(令和 3)年度では全国平均 57.8%に対し千葉県 62.6%となっている。

こうした点を踏まえると、本学部の開設地である千葉県成田市に薬学部を設置することは、千葉県内のみならず茨城県の薬剤師供給面において地域的な人材需要に対応する上で、既設大学と協調して対応できる立地にあると考えている。

(資料 2) (資料 13) (資料 18)

3) 本学の就職実績

本学の既設の薬学部薬学科(大田原キャンパス)に対する求人件数は、2017(平成 29)年度から 2021(令和 3)年度の 5 年間の平均で、就職希望者数 149.6 人に対して 800.6 件(5.4 件/人)となっており、毎年就職希望者数を大幅に上回る求人件数となっている。また就職率は、過去 5 年間連続で 100%と高い就職実績を確保しており、このような本学の求人並びに就職の実績は、薬剤師全般はもとより、本学が養成する薬剤師に対する人材需要の強さを示していると考えている。(資料 7)

なお、本学では 6 つの附属病院をはじめ、臨床医学研究センターという位置付けの関連病院・施設を各地に有している。薬学実務実習等において学部の教育面で大きな効果を挙げていることもあり、これらの施設は多くの就職希望者を受け入れている。

(資料 19)

さらに、本学は栃木県大田原市、千葉県成田市、東京都港区、神奈川県小田原市、福岡県大川市の5つのキャンパスで就職求人情報を共有している。2021（令和3）年度は茨城、千葉、埼玉、東京の薬剤師求人データだけで167件の求人件数が、2020（令和2）年度は170件の求人件数があり、就職には全く事欠かない状況であるといえる。

※求人人数の多寡にかかわらず件数でカウントしている。

4)「成田薬学部（仮称）人材需要状況の調査」

本学成田薬学部の設置計画を進めるにあたり、成田薬学部の設置及び教育研究上の目的や養成する人材が社会の需要を踏まえたものであることについて検証するために、成田薬学部卒業者への人材需要状況の調査のため、以下のとおりアンケート調査を実施した。

◆対象地域：

成田薬学部への人材需要が期待できる主な地域として、以下の6都道府県を抽出した。

1. 茨城県
2. 栃木県
3. 埼玉県
4. 千葉県
5. 東京都
6. 神奈川県

◆対象事業者：

- 1) 薬剤師の採用を行っている実績のある事業者として、本学既設の薬学部にて2017（平成29）年度～2022（令和4）年度に求人のあった事業者のうち、上記6都道府県が所在地である568事業者。
- 2) 上記年度には本グループ薬学部への求人がなかったものの、薬剤師の需要が多いと考えられる、上記6都道府県内の規模の大きな病院（一般病床300床以上かつ、薬学部を有する大学の附属病院等ではないもの）145を選定してアンケート送付対象に加えた。

これにより、合計送付件数を713件（うち506件が病院・診療所）とした。

※結果的に、713件に送付したうち10通が宛先不明で不着となったため、有効な送付件数は703件である。

◆調査方法：

上記713事業者に対し、本学が構想中の成田薬学部リーフレット（資料10）、「国際

医療福祉大学成田薬学部(仮称) 人材需要状況 アンケート調査ご協力のお願ひ」(資料 20) を郵送し、インターネット (Google フォーム) 上でのアンケート調査 (資料 21) への協力を依頼した。

なお、なりすまし回答等を防止するため、上記アンケートに回答するためには、送付した「アンケート調査ご協力のお願ひ」に記入されたパスワードの入力が必要となっている。

◆質問内容：(資料 21) のとおり。

◆回収件数：202 件 (有効な送付件数 703 件 回収率 28.7%)

◆回答：(資料 22) のとおり。

◆結果の分析

(1) 「問 6. 本学が設置構想中の「成田薬学部(仮称)」を卒業した人材を、将来、薬剤師として採用したいと思いますか。」及び「問 7. 問 6 で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」と回答した方は、採用可能であると思われる人数をお答えください。」について。

上記質問の結果、以下の回答が得られた。

採用したい 98 件

内訳

人数は未確定 (1 人としてカウント) : 37 件

1 人 : 15 件

2 人 : 23 件

3 人 : 5 件

4 人 : 3 件

5 人以上 (5 人としてカウント) : 15 件

1 件あたり採用人数平均 : 2.0 人

「採用したい」人数計 : 200 人

採用を検討したい : 71 件

内訳

人数は未確定 (1 人としてカウント) : 45 件

1 人 : 11 件

2 人 : 11 件

3人：3件

4人：1件

5人以上（5人としてカウント）：0件

1件あたり採用人数平均：1.3人

「採用を検討したい」人数計：91人

上記のとおり、本学成田薬学部而定員120人に対し、98の事業者から、成田薬学部を卒業した人材を、将来、薬剤師として採用したい旨の回答が得られた。また、「採用したい」という人数の合計は200人であった。

加えて、71の事業者から「採用を検討したい」旨の回答が得られた。また、「採用を検討したい」という人数の合計は91人であった。

上記より、「成田薬学部を卒業した人材を、将来、薬剤師として採用したい」という求人の人数としては、最低でも、定員である120人を大きく上回る200人を見込むことができると考えられる。

また、仮に「採用を検討したい」旨の回答があった事業者の5割程度から実際に求人が来たとすると45人が加わることになり、定員120人の2倍以上となる245人の求人が見込めることとなり、成田薬学部卒業生に対しては十分な社会からの需要があると考えられる。

（2）その他

① 回答全体における薬剤師の充足状況について

回答した事業者全体の50.5%が薬剤師の充足状況について「不足している」、17.8%が「非常に不足している」と回答している。（「問4.貴機関・貴社における、薬剤師の充足状況についてお答えください。」）

② 事業所の所在地別にみた薬剤師の充足状況について

設置予定地である千葉県からは33.3%、隣接地であり、既設の薬学部が存在しない茨城県からは44.0%と、特に高い割合で薬剤師が非常に不足している旨の回答が得られた。

③ 事業者の業種別にみた薬剤師の充足状況について

回答した事業者の業種別にみると、「医療・保健（病院・診療所）」では「不足している」が51.0%、「非常に不足している」が23.8%であり、「医療・保健（病院・診療所）」に従事する多くの事業者において薬剤師が充足しておらず、非常に需要が高い状況を伺い知ることができる。また、次に回答数の多い「小売」でも半数近い48.6%が「不足している」と回答している。

④ 事業者の業種別にみた成田薬学部卒業者への採用意志について

上記3)で示されたとおり、薬剤師が不足していることが顕著な「医療・保健（病院・診療所）」からは「採用したい」67件（46.9%）、「採用を検討したい」49件（34.3%）と、本学成田薬学部卒業生を採用することに向けて多数の非常に前向きな回答が寄せられている。

⑤ 事業者の所在地別にみた採用の意志について

事業者の所在地別にみると、成田薬学部設置予定地である千葉県の事業者からは特に高く、66.7%から「卒業生を採用したい」という回答が得られており、設置予定地においても、成田薬学部卒業生に対する高い需要が存在すると考えられる。

また、設置予定地隣接地であり既設の薬学部が存在しない茨城県からも 56.0%という非常に高い割合の「卒業生を採用したい」という回答が得られた。

5. 上記を踏まえた新学部開設の意義

以上のことから、本学成田薬学部薬学科が育成する人材は社会的な人材需要にマッチしていると考えられる。本学成田薬学部薬学科ではこれまでの栃木県大田原キャンパス及び福岡県大川キャンパスでの薬学教育の経験を踏まえた人材育成と教育、研究、地域への貢献を目指しており、これは社会的かつ地域的な人材需要の要望に応えるものである。

なお、本学部は千葉県成田市及び一般社団法人成田市薬剤師会より設置の要望書をいただいで開設するものであり、地元自治体、地域の意向に沿った計画である。

成田市としては、地域の臨床現場にとって非常に有意義であることはもとより、製薬会社や医療機器メーカー、研究・開発機関等と本学の連携が一層促進され、成田市への医療関連産業の集積につながるものとして、また、2013（平成25）年9月に成田市と本学とが共に提案した「国際医療学園都市構想」のさらなる進展による地域の活性化及び地域医療の充実に向けて、薬学部の設置を要望していたものである。

成田市薬剤師会としては、成田薬学部の開設によって成田市薬剤師会に所属する会員の資質向上に期待ができること、そして、質の高い薬学教育を実践することにより、まだまだ不足している。地域の薬剤師が確保されるとともに医療発展に貢献することを期待し、薬学部の設置を要望していたものである。

このように、成田薬学部の設置は、社会的な人材需要に対応するものであり、本学としては成田薬学部での人材育成と教育研究を通じ、成田市をはじめとする地域への貢献を果たし、期待に応えたいと考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

資料 1	令和3年度厚生労働省医薬・生活衛生局総務課委託事業 薬剤師確保のための調査・検討事業 報告書（抜粋）	3
資料 2	入学志願者数推移（一部抜粋）	4
資料 3	系統別志願状況（抜粋）	5
資料 4	私立薬科大学（薬学部）在学生（3年生）出身校都道府県別調 6年制（抜粋）	6
資料 5	国際医療福祉大学既設薬学部・同福岡薬学部入試結果	7
資料 6	千葉県内の私立大学薬学部における入試状況（付国家試験合格率）	8
資料 7	本学薬学部（大田原キャンパス）に対する求人状況と就職状況	10
資料 8	本学薬学部、福岡薬学部及び他大学の学納金の状況	11
資料 9	国際医療福祉大学 「成田薬学部」 開設計画に係る卒業後の進路に関するアンケート	12
資料 1 0	国際医療福祉大学 「成田薬学部(仮称)」 開設計画に係るリーフレット	14
資料 1 1	国際医療福祉大学 「成田薬学部」 開設計画に係る卒業後の進路に関するアンケートの結果	16
資料 1 2	18歳人口の見通し（南関東・埼玉・千葉・東京・神奈川及び全国）	19
資料 1 3	大学志願率の推移	20
資料 1 4	千葉県内大学入学定員充足率	21
資料 1 5	国際医療福祉大学 成田キャンパス 既設学部入試結果	22
資料 1 6	都道府県別薬剤師 人口10万人対比表	23
資料 1 7	千葉県内の市区町村別薬剤師数	24
資料 1 8	人口10万人当たり 6年制薬学課程定員数	26
資料 1 9	本学既設の薬学部卒業生の附属病院・関連施設への就職状況	27
資料 2 0	国際医療福祉大学成田薬学部(仮称) 人材需要状況 アンケート調査ご協力をお願い	28
資料 2 1	国際医療福祉大学成田薬学部（仮称） 人材需要状況の調査	29
資料 2 2	国際医療福祉大学成田薬学部（仮称） 人材需要状況の調査 アンケート結果	33

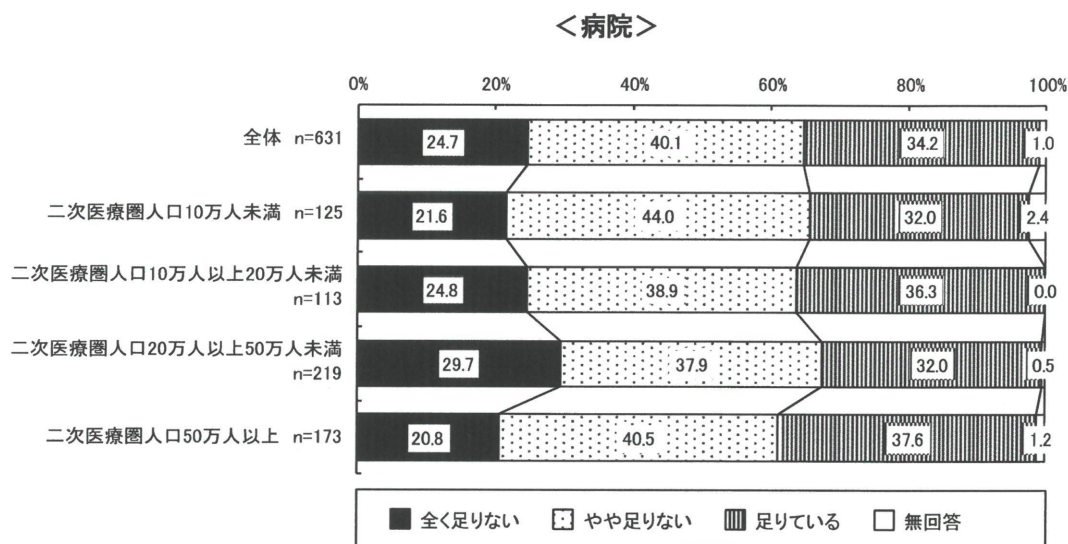
（2）病院・薬局における薬剤師の充足状況（病院・薬局 調査）

a. 薬剤師の充足感

薬剤師の充足状況に対する認識（充足感）として、不足していると認識している施設の割合は、病院では64.8%（「全く足りない」24.7%、「やや足りない」40.1%の合計）、薬局では41.2%（「全く足りない」5.7%、「やや足りない」35.5%の合計）であった。（充足感と理想とする薬剤師数に対する充足率との関係については、c.を参照）二次医療圏の人口規模別では、病院では人口規模による傾向は見られなかったが、薬局では、人口規模が小さいほど「全く足りない」「やや足りない」の割合がそれぞれ高くなり、「足りている」の割合が低くなる傾向が見られた。なお、人口規模にかかわらず、病院の方が薬局よりも「全く足りない」の割合が高い傾向は変わらず、両者で約3倍以上の差が見られた。

二次医療圏の人口規模にかかわらず、地域内の病院と薬局の間で偏在（病院薬剤師の不足）が生じている可能性がある。

図表 42 薬剤師の充足感（問 2-10）



出所：厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000963766.pdf>

入学志願者数推移（一部抜粋）

薬学部（大田原キャンパス）

入学志願者数（茨城県） 平均150名

	薬学部（入学定員180名）				
年度	2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
志願者数（名）	160	132	132	158	166

入学志願者数（千葉県） 平均50名

	薬学部（入学定員180名）				
年度	2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
志願者数（名）	38	56	43	48	83

成田看護学部（成田キャンパス）

入学志願者数（千葉県） 平均450名

	成田看護学部（入学定員100名）				
年度	2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
志願者数（名）	375	521	452	467	512

成田保健医療学部（成田キャンパス）

入学志願者数（千葉県） 平均790名

	成田保健医療学部（入学定員290名）				
年度	2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
志願者数（名）	554	614	884	1012	

※本表内の本学薬学部、福岡薬学部志願者数は、実志願者数ではなく、同一人物が複数回受験している場合は延べ人数を使用している。

区分	年度	集計 学部数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
薬学	2018 (H30)	57	11,451	96,008	89,848	30,387	10,949	8.38	33.82%	36.03%	95.62%
	2019 (R元)	57	11,356	89,223	83,094	31,311	10,613	7.86	37.68%	33.90%	93.46%
	2020 (R2)	59	11,451	82,668	76,646	32,170	10,629	7.22	41.97%	33.04%	92.82%
	2021 (R3)	60	11,501	73,580	68,606	32,506	10,191	6.40	47.38%	31.35%	88.61%
	2022 (R4)	60	11,391	76,635	71,916	33,351	10,798	6.73	46.37%	32.38%	94.79%
保健系	2018 (H30)	220	34,307	185,322	177,967	69,269	34,669	5.40	38.92%	50.05%	101.06%
	2019 (R元)	236	35,781	188,352	180,804	73,667	36,071	5.26	40.74%	48.96%	100.81%
	2020 (R2)	244	37,221	200,366	192,496	78,539	37,721	5.38	40.80%	48.03%	101.34%
	2021 (R3)	254	38,143	188,155	180,494	80,307	38,130	4.93	44.49%	47.48%	99.97%
	2022 (R4)	266	39,789	184,961	177,173	81,466	39,444	4.65	45.98%	48.42%	99.13%
歯学	2018 (H30)	17	2,063	9,332	9,543	3,622	1,677	4.52	37.95%	46.30%	81.29%
	2019 (R元)	17	2,063	10,115	9,246	3,699	1,713	4.90	40.01%	46.31%	83.03%
	2020 (R2)	17	2,039	9,187	8,330	3,843	1,692	4.51	46.13%	44.03%	82.98%
	2021 (R3)	17	2,015	7,564	6,832	3,563	1,528	3.75	52.15%	42.89%	75.83%
	2022 (R4)	17	2,015	7,773	7,038	3,800	1,534	3.86	53.99%	40.37%	76.13%

（出所）令和 4（2022）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）「4. 学部系統別の動向（大学）」
（出所）令和 3（2021）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）「4. 学部系統別の動向（大学）」
（出所）令和 2（2020）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）「4. 学部系統別の動向（大学）」
（出所）平成31（2019）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）「4. 学部系統別の動向（大学）」
（出所）平成30（2018）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）「5. 学部系統別の動向（大学）」
https://www.shigaku.go.jp/s_center_d_shigandoukou.htm

年度	都道府県	大学名	出身県															
			福島県		茨城県		栃木県		群馬県		埼玉県		千葉県		東京都		神奈川県	
			数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
2022 (R4)	下記茨城県隣接県外 計		59	37.6%	108	51.4%	75	42.9%	121	77.6%	375	62.9%	219	42.4%	907	78.2%	624	92.6%
	福島県	医療創生大学	20	12.7%	12	5.7%	1	0.6%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
	福島県	奥羽大学	51	32.5%	1	0.5%	3	1.7%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	2	0.2%	0	0.0%
	栃木県	国際医療福祉大学	18	11.5%	20	9.5%	64	36.6%	5	3.2%	6	1.0%	6	1.2%	1	0.1%	2	0.3%
	埼玉県	城西大学	1	0.6%	3	1.4%	5	2.9%	8	5.1%	87	14.6%	3	0.6%	41	3.5%	5	0.7%
	埼玉県	日本薬科大学	2	1.3%	6	2.9%	7	4.0%	7	4.5%	74	12.4%	22	4.3%	58	5.0%	7	1.0%
	千葉県	城西国際大学薬学部	1	0.6%	2	1.0%	0	0.0%	2	1.3%	1	0.2%	46	8.9%	7	0.6%	4	0.6%
	千葉県	千葉科学大学薬学部	0	0.0%	13	6.2%	0	0.0%	3	1.9%	0	0.0%	22	4.3%	3	0.3%	3	0.4%
	千葉県	東京理科大学薬学部	0	0.0%	5	2.4%	2	1.1%	0	0.0%	17	2.9%	18	3.5%	27	2.3%	9	1.3%
	千葉県	東邦大学薬学部	0	0.0%	14	6.7%	5	2.9%	4	2.6%	16	2.7%	129	25.0%	50	4.3%	5	0.7%
	千葉県	日本大学薬学部	5	3.2%	26	12.4%	13	7.4%	5	3.2%	19	3.2%	50	9.7%	64	5.5%	14	2.1%
	上記茨城県隣接県内 計		98	62.4%	102	48.6%	100	57.1%	35	22.4%	221	37.1%	297	57.6%	253	21.8%	50	7.4%
	千葉県内 計		6	3.8%	60	28.6%	20	11.4%	14	9.0%	53	8.9%	265	51.4%	151	13.0%	35	5.2%
	合計		157	100.0%	210	100.0%	175	100.0%	156	100.0%	596	100.0%	516	100.0%	1160	100.0%	674	100.0%
2021 (R3)	下記茨城県隣接県外 計		59	37.8%	123	50.2%	60	38.0%	103	77.4%	390	66.0%	234	40.1%	1025	78.1%	611	93.3%
	福島県	医療創生大学	30	19.2%	10	4.1%	1	0.6%	1	0.8%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%	1	0.2%
	福島県	奥羽大学	47	30.1%	8	3.3%	5	3.2%	1	0.8%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	2	0.3%
	栃木県	国際医療福祉大学	10	6.4%	31	12.7%	60	38.0%	8	6.0%	1	0.2%	5	0.9%	5	0.4%	0	0.0%
	埼玉県	城西大学	1	0.6%	5	2.0%	6	3.8%	5	3.8%	117	19.8%	4	0.7%	63	4.8%	8	1.2%
	埼玉県	日本薬科大学	2	1.3%	8	3.3%	10	6.3%	6	4.5%	49	8.3%	14	2.4%	60	4.6%	7	1.1%
	千葉県	城西国際大学薬学部	2	1.3%	7	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	70	12.0%	11	0.8%	2	0.3%
	千葉県	千葉科学大学薬学部	1	0.6%	14	5.7%	1	0.6%	2	1.5%	2	0.3%	26	4.5%	2	0.2%	4	0.6%
	千葉県	東京理科大学薬学部	0	0.0%	5	2.0%	3	1.9%	2	1.5%	7	1.2%	18	3.1%	21	1.6%	4	0.6%
	千葉県	東邦大学薬学部	2	1.3%	19	7.8%	3	1.9%	2	1.5%	12	2.0%	128	21.9%	54	4.1%	4	0.6%
	千葉県	日本大学薬学部	2	1.3%	15	6.1%	9	5.7%	3	2.3%	13	2.2%	83	14.2%	70	5.3%	12	1.8%
	上記茨城県隣接県内 計		97	62.2%	122	49.8%	98	62.0%	30	22.6%	201	34.0%	350	59.9%	287	21.9%	44	6.7%
	千葉県内 計		7	4.5%	60	24.5%	16	10.1%	9	6.8%	34	5.8%	325	55.7%	158	12.0%	26	4.0%
	合計		156	100.0%	245	100.0%	158	100.0%	133	100.0%	591	100.0%	584	100.0%	1312	100.0%	655	100.0%
2020 R2	下記茨城県隣接県外 計		66	36.5%	125	48.3%	77	38.1%	120	77.4%	393	61.2%	177	30.1%	1030	80.5%	625	93.6%
	福島県	医療創生大学	34	18.8%	10	3.9%	3	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.3%
	福島県	奥羽大学	52	28.7%	7	2.7%	10	5.0%	1	0.6%	3	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	栃木県	国際医療福祉大学	17	9.4%	27	10.4%	68	33.7%	6	3.9%	4	0.6%	51	8.7%	3	0.2%	5	0.7%
	埼玉県	城西大学	2	1.1%	12	4.6%	10	5.0%	8	5.2%	108	16.8%	15	2.6%	63	4.9%	5	0.7%
	埼玉県	日本薬科大学	2	1.1%	4	1.5%	15	7.4%	11	7.1%	83	12.9%	14	2.4%	58	4.5%	4	0.6%
	千葉県	城西国際大学薬学部	2	1.1%	9	3.5%	2	1.0%	0	0.0%	2	0.3%	88	15.0%	9	0.7%	7	1.0%
	千葉県	千葉科学大学薬学部	1	0.6%	14	5.4%	1	0.5%	2	1.3%	1	0.2%	20	3.4%	3	0.2%	3	0.4%
	千葉県	東京理科大学薬学部	0	0.0%	5	1.9%	3	1.5%	2	1.3%	12	1.9%	18	3.1%	23	1.8%	4	0.6%
	千葉県	東邦大学薬学部	1	0.6%	15	5.8%	2	1.0%	2	1.3%	15	2.3%	135	23.0%	38	3.0%	3	0.4%
	千葉県	日本大学薬学部	4	2.2%	31	12.0%	11	5.4%	3	1.9%	21	3.3%	70	11.9%	53	4.1%	10	1.5%
	上記茨城県隣接県内 計		115	63.5%	134	51.7%	125	61.9%	35	22.6%	249	38.8%	411	69.9%	250	19.5%	43	6.4%
	千葉県内 計		8	4.4%	74	28.6%	19	9.4%	9	5.8%	51	7.9%	331	56.3%	126	9.8%	27	4.0%
	合計		181	100.0%	259	100.0%	202	100.0%	155	100.0%	642	100.0%	588	100.0%	1280	100.0%	668	100.0%
2019 (R1)	下記茨城県隣接県外 計		58	33.7%	122	51.3%	81	45.3%	113	73.9%	390	63.4%	218	37.7%	1053	79.6%	675	93.5%
	福島県	医療創生大学	31	18.0%	6	2.5%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%	2	0.3%
	福島県	奥羽大学	60	34.9%	2	0.8%	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	2	0.2%	1	0.1%
	栃木県	国際医療福祉大学	9	5.2%	24	10.1%	53	29.6%	9	5.9%	5	0.8%	6	1.0%	1	0.1%	1	0.1%
	埼玉県	城西大学	0	0.0%	13	5.5%	12	6.7%	9	5.9%	97	15.8%	6	1.0%	59	4.5%	3	0.4%
	埼玉県	日本薬科大学	2	1.2%	6	2.5%	11	6.1%	11	7.2%	69	11.2%	10	1.7%	45	3.4%	10	1.4%
	千葉県	城西国際大学薬学部	1	0.6%	0	0.0%	2	1.1%	0	0.0%	4	0.7%	79	13.7%	8	0.6%	3	0.4%
	千葉県	千葉科学大学薬学部	2	1.2%	19	8.0%	1	0.6%	1	0.7%	2	0.3%	23	4.0%	11	0.8%	2	0.3%
	千葉県	東京理科大学薬学部	0	0.0%	15	6.3%	4	2.2%	2	1.3%	8	1.3%	23	4.0%	25	1.9%	6	0.8%
	千葉県	東邦大学薬学部	4	2.3%	17	7.1%	3	1.7%	5	3.3%	18	2.9%	155	26.8%	46	3.5%	3	0.4%
	千葉県	日本大学薬学部	5	2.9%	14	5.9%	7	3.9%	3	2.0%	22	3.6%	56	9.7%	72	5.4%	16	2.2%
	上記茨城県隣接県内 計		114	66.3%	116	48.7%	98	54.7%	40	26.1%	225	36.6%	360	62.3%	270	20.4%	47	6.5%
	千葉県内 計		12	7.0%	65	27.3%	17	9.5%	11	7.2%	54	8.8%	336	58.1%	162	12.2%	30	4.2%
	合計		172	100.0%	238	100.0%	179	100.0%	153	100.0%	615	100.0%	578	100.0%	1323	100.0%	722	100.0%

(出所) 日本私立薬科大学協会だより（一般社団日本私立薬科大学協会編）第94号,第96号,第98号,第100号

国際医療福祉大学 薬学部（入学定員：180人、所在地：栃木県大田原市）

	2018年度 (平成30)	2019年度 (平成31)	2020年度 (令和 2)	2021年度 (令和 3)	2022年度 (令和 4)
実志願者数	641	622	608	560	628
他学部・学科との併願者数（内数）	44	57	151	100	105
実受験者数	636	605	599	554	620
実合格者数	383	388	432	379	412
入学者数	194	186	182	188	189
志願倍率	3.56	3.46	3.38	3.11	3.49
入学定員充足率	107.8%	103.3%	101.1%	104.4%	105.0%

国際医療福祉大学 福岡薬学部（入学定員：120人、所在地：福岡県大川市）

			2020年度 (令和 2)	2021年度 (令和 3)	2022年度 (令和 4)
実志願者数			652	508	557
他学部・学科との併願者数（内数）			145	74	79
実受験者数			642	502	549
実合格者数			352	310	313
入学者数			131	123	129
志願倍率			5.43	4.23	4.64
入学定員充足率			109.2%	102.5%	107.5%

【資料6】

千葉県内の私立大学薬学部における入試状況（付国家試験合格率）

	年度	入学定員	志願者数 (一般)	志願者数 (推薦)	志願者数 (合計)	志願倍率	入学者数	定員充足率
--	----	------	--------------	--------------	--------------	------	------	-------

東邦大学薬学部	2022（令和４）	220	1766	239	2005	9.1	241	1.09
	2021（令和３）	220	1649	242	1891	8.6	241	1.09
	2020（令和２）	220	1824	272	2096	9.5	241	1.09
	2019（令和元）	220	1743	157	1900	8.6	239	1.08
	2018（平成30）	220	2090	206	2296	10.4	241	1.09

日本大学薬学部	2022（令和４）	244	1270	128	1398	5.7	293	1.20
	2021（令和３）	244	1293	139	1432	5.9	258	1.05
	2020（令和２）	244	1522	126	1648	6.8	254	1.04
	2019（令和元）	244	1730	145	1875	7.7	261	1.06
	2018（平成30）	244	2391	156	2547	10.4	254	1.04

東京理科大学薬学部	2022（令和４）	100	2040	45	2085	20.9	98	0.98
	2021（令和３）	100	1797	42	1839	18.4	93	0.93
	2020（令和２）	100	2009	41	2050	20.5	104	1.04
	2019（令和元）	100	2127	28	2155	21.6	82	0.82
	2018（平成30）	100	2210	19	2229	22.3	87	0.87

城西国際大学薬学部	2022（令和４）	130	172	15	187	1.4	57	0.43
	2021（令和３）	130	263	16	279	2.1	78	0.60
	2020（令和２）	130	274	23	297	2.3	76	0.58
	2019（令和元）	130	400	19	419	3.2	101	0.77
	2018（平成30）	130	449	29	478	3.7	119	0.91

千葉科学大学薬学部	2022（令和４）	100	176	38	214	2.1	50	0.50
	2021（令和３）	120	171	53	224	1.9	76	0.63
	2020（令和２）	120	229	21	250	2.1	59	0.49
	2019（令和元）	120	279	10	289	2.4	61	0.50
	2018（平成30）	120	266	18	284	2.4	76	0.63

千葉県内私立薬学部計	2022（令和４）	794	5424	465	5889	7.4	739	0.93
	2021（令和３）	814	5173	492	5665	7.0	746	0.91
	2020（令和２）	814	5858	483	6341	7.8	734	0.90
	2019（令和元）	814	6279	359	6638	8.2	744	0.91
	2018（平成30）	814	7406	428	7834	9.6	777	0.95

※参考

	年度	入学定員	志願者数 (一般)	志願者数 (推薦)	志願者数 (合計)	志願倍率	入学者数	定員充足率
国際医療福祉大学薬学部	2022（令和４）	180	702	421	1123	6.2	189	1.05
	2021（令和３）	180	656	383	1039	5.8	188	1.04
	2020（令和２）	180	548	449	997	5.5	182	1.01
	2019（令和元）	180	568	422	990	5.5	186	1.03
	2018（平成30）	180	673	444	1117	6.2	194	1.07

国際医療福祉大学 福岡薬学部	2022（令和４）	120	689	408	1097	9.1	129	1.07
	2021（令和３）	120	672	398	1070	8.9	123	1.02
	2020（令和２）	120	821	446	1267	10.6	131	1.09

	年度	入学定員	志願者数 (一般)	志願者数 (推薦)	志願者数 (合計)	志願倍率	入学者数	定員充足率
千葉大学薬学部※	2022（令和４）	90	621	49	670	7.4	95	1.05
	2021（令和３）	90	607	46	653	7.3	95	1.05
	2020（令和２）	90	473	44	517	5.7	92	1.02
	2019（令和元）	90			595	6.6	90	1.00
	2018（平成30）	80			608	7.6	85	1.06

※４年制を含む

※標準修業年限内国家試験合格率の数値は、R4年のみ４年制進学者を除去して算出した数値である。R3年度以前についてはデータなし。

※本表内の志願者数は、実志願者数ではなく、同一人物が複数回受験している場合は延べ人数を使用している。

年度 (国家試験回数)	国家試験 合格率	新卒	既卒	標準修業 年限内 合格率
----------------	-------------	----	----	--------------------

2021（107回）	88.0%	92.2%	69.2%	71.9%
2020（106回）	84.1%	93.8%	50.9%	76.5%
2019（105回）	84.7%	93.0%	41.0%	71.3%
2018（104回）	86.4%	94.6%	56.6%	75.3%
2017（103回）	84.9%	91.9%	60.0%	69.4%

2021（107回）	72.8%	83.9%	52.5%	59.9%
2020（106回）	76.8%	88.3%	52.7%	65.1%
2019（105回）	76.8%	86.7%	60.0%	69.3%
2018（104回）	70.3%	84.1%	49.6%	58.8%
2017（103回）	73.8%	82.2%	61.7%	58.2%

2021（107回）	79.0%	90.1%	36.8%	79.1%
2020（106回）	84.6%	96.6%	35.3%	78.4%
2019（105回）	83.5%	96.7%	23.1%	78.9%
2018（104回）	88.6%	94.6%	70.6%	85.1%
2017（103回）	84.8%	91.7%	56.3%	78.8%

2021（107回）	36.7%	42.3%	30.5%	30.4%
2020（106回）	53.7%	62.6%	52.7%	31.9%
2019（105回）	52.2%	64.9%	25.6%	31.1%
2018（104回）	57.3%	79.7%	23.5%	25.7%
2017（103回）	59.8%	92.7%	30.2%	37.0%

2021（107回）	43.9%	56.5%	37.7%	21.6%
2020（106回）	47.7%	69.5%	33.7%	22.3%
2019（105回）	56.4%	97.7%	30.3%	26.1%
2018（104回）	50.0%	72.1%	30.6%	39.2%
2017（103回）	51.2%	68.8%	40.3%	37.0%



年度 (国家試験回数)	国家試験 合格率	新卒	既卒	標準修業 年限内 合格率
2021（107回）	80.0%	92.5%	60.0%	90.0%
2020（106回）	84.6%	94.7%	40.0%	
2019（105回）	80.9%	92.5%	25.0%	
2018（104回）	85.1%	92.5%	0.0%	
2017（103回）	89.8%	95.1%	100.0%	

出所：「日本私立薬科大学協会だより	第99号」	令和4年度私立薬科大学（薬学部）入学志願者調
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第97号」	令和3年度私立薬科大学（薬学部）入学志願者調
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第95号」	令和2年度私立薬科大学（薬学部）入学志願者調
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第93号」	2019年度（平成31年）私立薬科大学（薬学部）入学志願者調
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第99号」	令和4年度私立薬科大学（薬学部）入学定員と入学者数
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第97号」	令和3年度私立薬科大学（薬学部）入学定員と入学者数
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第95号」	令和2年度私立薬科大学（薬学部）入学定員と入学者数
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第93号」	2019年度（平成31年）私立薬科大学（薬学部）入学定員と入学者数
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第99号」	第107回薬剤師国家試験大学別合格状況
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第97号」	第106回薬剤師国家試験大学別合格状況
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第95号」	第105回薬剤師国家試験大学別合格状況
出所：「日本私立薬科大学協会だより	第91号」	第104回（平成31年）薬剤師国家試験大学別合格状況

出所：千葉大学入学者選抜実施状況

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R4_jissijoukyou_zenki.pdf

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R4_jissijoukyou_kouki.pdf

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R4_jissijoukyou_suisen.pdf

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R3_jissijoukyou_zenki.pdf

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R3_jissijoukyou_kouki.pdf

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R3_jissijoukyou_suisen.pdf

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R2_jissijoukyou_zenki.pdf

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R2_jissijoukyou_kouki.pdf

https://www.chiba-u.ac.jp/exam/R2_jissijoukyou_suisen.pdf

<https://www.chiba-u.ac.jp/exam/20190213shigankakutei.pdf>

<https://www.chiba-u.ac.jp/exam/20180209shigankakutei.pdf>

出所：薬学部における就学状況等

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/1361518.htm

【資料 7】

本学薬学部(大田原キャンパス)に対する求人状況と就職状況

○求人状況

学部学科	年度		求人件数	就職 希望者数	1人当たり 求人件数
薬学部	R3年度	2021	627	137	4.6
	R2年度	2020	775	154	5.0
	R1年度	2019	688	144	4.8
	H30年度	2018	897	163	5.5
	H29年度	2017	1,016	150	6.8
	平均		800.6	149.6	5.4

○就職状況

	年度		卒業者数	①就職 希望者数	② 就職者数	②/① 就職率
薬学部 薬学科 (入学定員 180人)	R3年度	2021	147	137	137	100%
	R2年度	2020	164	154	154	100%
	R1年度	2019	153	144	144	100%
	H30年度	2018	188	163	163	100%
	H29年度	2017	176	150	150	100%

本学薬学部、福岡薬学部及び他大学の学納金の状況

【資料 8】

国際医療福祉大学薬学部 (入学定員：180人 所在地：栃木県大田原市)

学年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費 教育充実費	年度合計	6年間総額
初年度	300	1,100	50	300	1,750	9,900
2年次以降	—	1,100	230	300	1,630	

※単位：千円。以下同じ

国際医療福祉大学福岡薬学部 (入学定員：120人 所在地：福岡県大川市)

学年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費 教育充実費	年度合計	6年間総額
初年度	300	1,100	50	300	1,750	9,900
2年次以降	—	1,100	230	300	1,630	

東邦大学薬学部 (入学定員：220人 所在地：千葉県船橋市)

学年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費 教育充実費	年度合計	6年間総額
初年度	400	1,120		710	2,230	12,480
2年次以降	—	1,340		710	2,050	

日本大学薬学部 (入学定員：144人 所在地：千葉県船橋市)

学年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費 教育充実費	年度合計	6年間総額
初年度	400	1,400		650	2,450	12,700
2年次以降	—	1,400		650	2,050	

東京理科大学薬学部 (入学定員：100人 所在地：千葉県野田市)

学年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費 教育充実費	年度合計	6年間総額
初年度	300	1,495		550	2,345	12,570
2年次以降	—	1,495		550	2,045	

城西国際大学薬学部 (入学定員：130人 所在地：千葉県東金市)

学年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費 教育充実費	年度合計	6年間総額
初年度	400	1,430		186	2,016	12,496
2年次以降	—	1,430		666	2,096	

千葉科学大学薬学部 (入学定員：100人 所在地：千葉県銚子市)

学年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費 教育充実費	年度合計	6年間総額
初年度	300	1,220	200	450	2,170	11,820
2年次以降		1,220	260	450	1,930	

(出所) 日本私立薬科大学協会だより 第99号 令和4年度私立薬科大学(薬学部)学生納付金等調

国際医療福祉大学「成田薬学部」開設計画に係る
卒業後の進路に関するアンケート

学校法人国際医療福祉大学では、2024 年 4 月に「成田薬学部」（千葉県成田市）の開設を計画しています。高校生の皆さんの進学に関する率直な考えをお聞きして、「成田薬学部」の教育内容にぜひ反映したいと考えておりますので、アンケートへのご協力をどうぞよろしくお願いします。

なお、回答いただいた内容は統計資料として上記の目的にのみ使用します。個人が特定される形で使用することは一切ありません。

※マーク欄の塗り方：ボールペンや水性ペンなど黒いインクのペンを使用してください。（良い例：● 悪い例：①②③）
マークの訂正は、訂正したいマークを×で消して（✕）正しいマークを塗りつぶしてください。

【質問 1】あなたは高校卒業後にどのような進路を考えていますか。（複数回答可）。

- 大学への進学 ○ 短期大学への進学 ○ 専門学校への進学
○ 就職 ○ 決めていない ○ その他（ ）

【質問 2】以降は、【質問 1】で「1. 大学への進学」、「2. 短期大学への進学」、「3. 専門学校への進学」のいずれかに○をつけた方のみ、お答えください。

【質問 2】あなたが進学したい分野は、次のうちどれですか。

分 野	第 1 希 望	第 2 希 望	第 3 希 望
1. 医学・歯学・薬学関係	○	○	○
2. 保健医療系（理学療法/作業療法/言語聴覚/医学検査など）	○	○	○
3. 看護系	○	○	○
4. 社会学・社会福祉学系	○	○	○
5. 家政学系	○	○	○
6. 工学系	○	○	○
7. 理学系	○	○	○
8. 農学系	○	○	○
9. 芸術系	○	○	○
10. 体育系	○	○	○
11. 経済学・商学系	○	○	○
12. 法学系	○	○	○
13. 教育学・保育学系	○	○	○
14. 文学・史学・哲学系	○	○	○
15. その他（ ）	○	○	○

（裏面に続く）

学生納付金(参考) ※本学の大田原・大川キャンパス薬学部の学生納付金は以下のとおりです

学 年	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費	年度合計	6年間合計
初年度	30万円	110万円	5万円	30万円	175万円	990万円
2年次以降	—	110万円	23万円	30万円	163万円	

※全国私立大学薬学部の平均学費は6年間合計 1,204万7千円 (2022年度日本私立薬科大学協会資料より)

※ 本学の他学部同様、特待奨学生や奨学金の制度の創設を検討しています。

特待奨学生制度(参考)

大川キャンパス福岡薬学部の特待奨学生制度(2023年度入試)

特待奨学生を選抜する入試	特待奨学生の種類	奨学金給付額 (6年間合計)	学生納付金(6年間合計)		選抜人数
			奨学金給付前	奨学金給付後	
特待奨学生特別選抜 (12月実施)	特待奨学生S 授業料100%相当額給付	660万円	990万円	⇒ 330万円	最大15人
	特待奨学生A 授業料50%相当額給付	330万円		⇒ 660万円	最大20人
一般選抜前期 (1月実施) 大学入学共通テスト利用選抜	特待奨学生B 授業料30%相当額給付	198万円		⇒ 792万円	最大30人

特待奨学生特別選抜、一般選抜前期、大学入学共通テスト利用選抜の成績上位合格者から、特待奨学生S・A・Bを選抜。最大で授業料100%相当額の奨学金を給付します。特待奨学生Sに選抜されると6年間の学生納付金は330万円となり、国公立大学よりも低額の学生納付金で進学することができます。※奨学金は各年度の授業料に振り替えます

キャンパスライフを支える周辺環境

2つの学生寮を整備。
女子学生や遠方からの学生も安心です！



公津の杜ハイツ

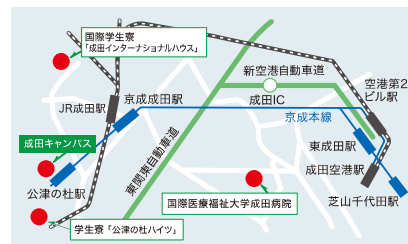


成田インターナショナルハイツ

ショッピングセンターやコンビニ、
飲食店がたくさんあります！



キャンパスは駅前。通学に大変便利です！



【成田キャンパスへのアクセス】

〒286-8686 千葉県成田市公津の杜4-3

JR東京駅	JR船橋駅/京成船橋駅 経由 約70分
京成上野駅	京成本線特急 約65分
京成千葉駅	京成津沼駅 経由 約60分
JR我孫子駅	JR成田駅/京成成田駅 経由 約60分
成田空港駅	京成本線 約14分

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学

お問い合わせ 成田キャンパス広報室

TEL.0476-20-7705

E-mail naritakoho-ml@iuhw.ac.jp
URL https://www.iuhw.ac.jp/



220920000



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

【資料10】

入学定員
120名
(予定)

2024年4月 成田薬学部 薬学科 (仮称) 開設予定 (設置構想中)

※ここに掲載されている内容は予定であり、今後変更になる可能性があります



千葉県
成田市

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

2024年4月 千葉県成田市に、臨床に強い薬剤師を養成する成田薬学部を設置を構想しています。

成田市と共同で取り組む国家戦略特区事業「国際医療学園都市構想」において、国際医療福祉大学は2016年に成田キャンパスを開設しました。医学部を筆頭に医療福祉専門職を養成する学部・学科および附属病院等を設置し、総合的な医療人材養成機関として歩んできました。そして今、チーム医療・チームケアの一員として、とりわけ社会から大きな期待を寄せられているのは、臨床現場で活躍できる薬剤師の養成です。私たちは新たに「成田薬学部」(仮称)を設置する構想をとりまとめ、その実現に向けて準備作業を本格化させています。

成田薬学部 薬学科の概要 (予定)

学部学科名称	成田薬学部 薬学科(仮称)	修 業 年 限	6年
開 学 時 期	2024年4月(予定)	入 学 定 員	120名(予定)
建 設 予 定 地	千葉県成田市公津の杜4-3 (成田キャンパス内) 千葉県成田市畑ケ田852 (国際医療福祉大学成田病院内)	収 容 定 員	720名(予定)
		取得可能資格	薬剤師

国際医療福祉大学 薬学教育の特長

医療人としての薬剤師を養成

医師に対し薬物治療の提案を行ったり、医師・看護師らとチームで患者さんに対応したりなど、臨床の現場で活躍できる薬剤師を育てます。また、医師、ケアマネジャー、訪問看護師などと連携し、訪問医療の一翼も担える薬剤師を養成します。

関連職種連携教育

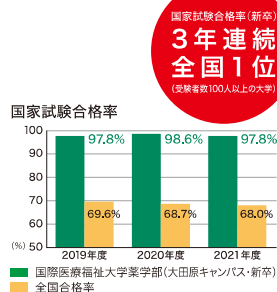
医学部、成田看護学部、成田保健医療学部の学生と学科の垣根を越えたチームを編成し、「チーム医療・チームケア」を体験する関連職種連携教育を行います。多数の学科があり、豊富な関連施設を有することで実現した本学独自のカリキュラムです。

充実の臨床実習

薬学部では22週間の実務実習が必修です。豊富な附属病院や近隣のグループ施設と緊密に連携しながら、充実した臨床実習を実施します。また学内に、模擬保険薬局や調剤室をはじめ実践的に学べる各種の実習室を整備します。

活発な国際交流

海外学術交流協定を結んでいる24カ国・地域において約2週間の海外研修を実施します。異なる文化や海外の医療福祉を体験することで国際的な感覚を身につけます。また多数の留学生在いる成田キャンパスは、国際色豊かな学修環境です。



高い国家試験合格率

本学はすでに大田原キャンパスや大川キャンパスで質の高い薬剤師教育を実践しており、実績も十分に横んでいます。このノウハウを生かして高い合格率をめざします。

充実のグループ施設と連携した教育

本学6つの附属病院



国際医療福祉大学成田病院 (千葉県成田市)



国際医療福祉大学市川病院 (千葉県市川市)



国際医療福祉大学三田病院 (東京都港区)



国際医療福祉大学熱海病院 (静岡県熱海市)



国際医療福祉大学病院 (栃木県那須塩原市)



国際医療福祉大学塩谷病院 (栃木県塩谷町)



山王病院 (東京都港区)

成田キャンパスからシャトルバスで約20分の国際医療福祉大学成田病院は、アジアを代表する国際的な病院をめざして2020年3月に開院しました。病院内には教育研修センターが設置され、臨床実習で訪れる学生のために、シミュレーションセンターや図書館、自習室など快適な学修空間を提供しています。



臨床医学研究センター
山王病院 (東京都港区)

本学の理念

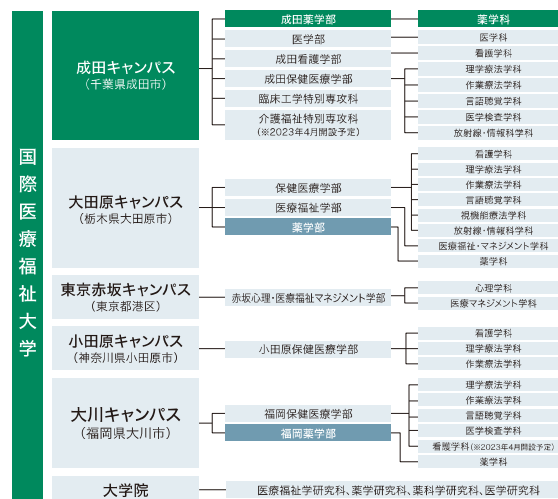
「共に生きる社会」の実現を目指して

病める人も、障害を持つ人も、健康な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」を実現したい。それが本学の願いです。この願いに共感して、医療福祉分野の先駆者が集い、教育にあたっています。

医療福祉の総合大学

全国に5キャンパス、10学部25学科と大学院を展開

本学は医療福祉専門職の養成とその地位向上を志し、1995年に開学した日本初の医療福祉の総合大学です。5つのキャンパスに10学部25学科を持ち、約10,000名の学生が学んでいます。



関連職種連携教育

成田キャンパス内の施設



成田シミュレーションセンター

5,338㎡の広さを持つ、世界最大級の医学教育シミュレーションセンター。救急室、手術室、集中治療室、模擬診察室などを備え、臨床現場に即した知識や技術を実践的に学べます。



図書館

E棟の「成田キャンパス図書館」とW棟の「医学図書館」の2館体制で、学生たちの学びを支援します。



体育館

4階のアリーナは、バスケットボールコート2面分の広さ。5階部分にギャラリー用160席を設置しています。



学生食堂

300席を超える学生食堂は、開放的なテラスに面し、外の景色を眺めながら食事を楽しめます。

【資料 11】

国際医療福祉大学「成田薬学部」開設計画に係る卒業後の進路に関するアンケートの結果

【質問 1】あなたは高校卒業後にどのような進路を考えていますか。（複数回答可）。

大学への進学		短期大学への進学		専門学校への進学		就職		決めていない		その他		回答件数	構成比
数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比		
17,266	87.5%	377	1.9%	1,364	6.9%	192	1.0%	420	2.1%	124	0.6%	19,743	100.0%

【質問 2】あなたが進学したい分野は、次のうちどれですか。

※以降すべて、質問 1 で「大学への進学」を選択した生徒（17,266 名）のみを抽出している。

第一希望分野

領域	数	構成比
工学系	3,523	20.4%
理学系	2,229	12.9%
医学・歯学・薬学関係	2,151	12.5%
経済学・商学系	1,397	8.1%
看護系	1,209	7.0%
保健医療系（理学・作業・言語・検査など）	1,094	6.3%
教育学・保育学系	994	5.8%
文学・史学・哲学系	904	5.2%
その他	846	4.9%
農学系	790	4.6%
法学系	472	2.7%
芸術系	460	2.7%
社会学・社会福祉学系	427	2.5%
体育系	314	1.8%
家政学系	310	1.8%
無回答・無効	146	0.8%
計	17,266	100.0%

第二希望分野

領域	数	構成比
理学系	3,365	19.5%
無回答・無効	2,278	13.2%
工学系	1,847	10.7%
保健医療系（理学・作業・言語・検査など）	1,580	9.2%
経済学・商学系	1,194	6.9%
医学・歯学・薬学関係	1,138	6.6%
教育学・保育学系	1,084	6.3%
文学・史学・哲学系	781	4.5%
農学系	725	4.2%
看護系	679	3.9%
法学系	673	3.9%
社会学・社会福祉学系	621	3.6%
体育系	450	2.6%
芸術系	328	1.9%
その他	267	1.5%
家政学系	256	1.5%
計	17,266	100.0%

第三希望分野

領域	数	構成比
無回答・無効	3,438	19.9%
医学・歯学・薬学関係	1,450	8.4%
経済学・商学系	1,411	8.2%
教育学・保育学系	1,364	7.9%
理学系	1,306	7.6%
保健医療系（理学・作業・言語・検査など）	1,137	6.6%
農学系	1,136	6.6%
工学系	1,080	6.3%
文学・史学・哲学系	895	5.2%
社会学・社会福祉学系	797	4.6%
看護系	722	4.2%
芸術系	716	4.1%
法学系	625	3.6%
体育系	560	3.2%
その他	316	1.8%
家政学系	313	1.8%
計	17,266	100.0%

【質問3】進学先を決定する際、あなたはどのような点を重視しますか。（複数回答可）。

学部・学科 の専攻分野		資格の取得		就職実績		校舎・施設 の充実		学費 (入学金・授業料)		大学の 伝統・知名度		入試の難易 度・入試科目		立地 (家からの距離)		その他	
数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比
11,444	66.3%	6,079	35.2%	5,434	31.5%	5,486	31.8%	6,128	35.5%	2,611	15.1%	6,279	36.4%	5,730	33.2%	212	1.2%

【質問4】あなたは医療福祉分野の国家資格に興味がありますか。

医師		薬剤師		診療放射線 技師		理学療法士		作業療法士		言語聴覚士		臨床検査 技師		看護師		保健師		その他		興味なし	
数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
1,584	9.2%	2,029	11.8%	948	5.5%	1,409	8.2%	379	2.2%	230	1.3%	830	4.8%	1,595	9.2%	467	2.7%	373	2.2%	9,021	52.2%

【質問5】あなたは、国際医療福祉大学「成田薬学部」についてどのように感じましたか。

次の中から1つ選び○をつけてください。

【質問6】あなたは、国際医療福祉大学「成田薬学部」に進学したいと思いますか。

次の中から1つ選び○をつけてください。

（下表では、以下の条件をすべて満たす生徒のみを抽出した

質問1にて、進路として「大学への進学」を選択している。

質問2にて、進路希望先として「医学・歯学・薬学系」を選択している。

質問4にて、薬剤師国家資格に興味があると回答している。）

		質問 5 回答										計	
		とても興味をもった		興味をもった		興味をもてなかった		どちらともいえない		無回答			
		数 (a)	構成比 (a/b)	数 (a)	構成比 (a/b)	数 (a)	構成比 (a/b)	数 (a)	構成比 (a/b)	数 (a)	構成比 (a/b)	数 (b)	%
質問 6 回答	進学したいと思った	47	83.9%	8	14.3%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	56	100.0%
	併願校の可否によっては 進学したいと思った	65	28.6%	153	67.4%	1	0.4%	5	2.2%	3	1.3%	227	100.0%
	進学を検討して みたいと思った	126	24.5%	371	72.2%	4	0.8%	5	1.0%	8	1.6%	514	100.0%
	進学を希望しない	3	6.0%	27	54.0%	13	26.0%	6	12.0%	1	2.0%	50	100.0%
	どちらともいえない	1	2.8%	22	61.1%	1	2.8%	12	33.3%	0	0.0%	36	100.0%
	無回答	36	3.5%	536	52.3%	153	14.9%	257	25.1%	42	4.1%	1024	100.0%
		合計 (c)	(c/d)	合計 (c)	(c/d)	合計 (c)	(c/d)	合計 (c)	(c/d)	合計 (c)	(c/d)	合計 (d)	
		278	14.6%	1,117	58.6%	173	9.1%	285	14.9%	54	2.8%	1,907	100.0%

【質問7】あなたが、国際医療福祉大学「成田薬学部」に「進学したい」または「進学を検討したい」と思った理由は何ですか。（複数回答可）。

（以下の条件をすべて満たす生徒のみを抽出した

質問1にて、進路として「大学への進学」を選択している。

質問2にて、進路希望先として「医学・歯学・薬学関係」を選択している。

質問4にて、薬剤師国家資格に興味があると選択している

質問6にて、「成田薬学部」に「進学したい」併願校の可否によっては進学したい」または「進学を検討したい」のいずれかを選択している。）

臨床に強い薬剤師を育成する、という教育方針に共感できるから		国際医療福祉大学のもつ理念（「共に生きる社会の実現」など）に共感できるから		医療福祉の総合大学であり、「チーム医療・チームケア」が学べるから		薬剤師の国家試験合格率ですでに高い実績を上げている大学だから		就職において毎年高い実績を上げている大学だから		低い学費設定、特待生制度や奨学金制度の充実等、学費面での負担軽減が期待できるから		大学グループとして多くの医療福祉施設を運営しており、実習環境が充実しているから		国際性を目指した大学であり、国際交流が活発だから		成田市は都心と空港とを結ぶ鉄道路線が通っており、交通至便な立地だから	
数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比
216	23.9%	297	32.9%	97	10.8%	209	23.2%	102	11.3%	87	9.6%	116	12.9%	6	0.7%	14	1.6%

18歳人口の見通し（南関東・埼玉・千葉・東京・神奈川及び全国）

【資料12】

		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年
南関東	人数	301,999	299,356	294,497	287,188	296,717	299,066	297,730	296,434	295,571	289,921	289,460	288,423	290,523
	指数	100.0	99.1	97.5	95.1	98.3	99.0	98.6	98.2	97.9	96.0	95.8	95.5	96.2
埼玉	人数	64,508	63,542	62,543	61,198	62,910	62,892	62,148	62,630	61,975	60,121	59,852	59,634	59,117
	指数	100.0	98.5	97.0	94.9	97.5	97.5	96.3	97.1	96.1	93.2	92.8	92.4	91.6
千葉	人数	54,908	53,904	53,438	51,415	52,978	52,972	52,921	52,796	52,329	51,425	50,470	49,854	50,023
	指数	100.0	98.2	97.3	93.6	96.5	96.5	96.4	96.2	95.3	93.7	91.9	90.8	91.1
東京	人数	104,150	104,018	102,330	100,279	104,524	106,225	106,612	103,893	104,109	103,128	104,071	105,448	107,337
	指数	100.0	99.9	98.3	96.3	100.4	102.0	102.4	99.8	100.0	99.0	99.9	101.2	103.1
神奈川	人数	78,433	77,892	76,186	74,296	76,305	76,977	76,049	77,115	77,158	75,247	75,067	73,487	74,046
	指数	100.0	99.3	97.1	94.7	97.3	98.1	97.0	98.3	98.4	95.9	95.7	93.7	94.4
全国	人数	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,063,451	1,090,537	1,092,199	1,084,161	1,070,907	1,068,668	1,050,118	1,034,763	1,023,785	1,014,014
	指数	100.0	98.3	96.2	93.2	95.6	95.7	95.0	93.8	93.6	92.0	90.7	89.7	88.9

出所：リクルート進学総研「マーケットリポートvol.98(2022年 6 月号)」

<https://souken.shingakunet.com/research/2022/06/182021-4.html>

	区分	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	直近5年間の平均
全国	高等学校卒業生数	1,069,568	1,056,378	1,050,559	1,037,284	1,012,007	1,045,159
	大学入学志願者数	603,397	601,550	594,622	589,997	585,294	594,972
	大学志願率	56.4%	56.9%	56.6%	56.9%	57.8%	56.9%
千葉県	高等学校卒業生数	49,330	49,149	48,998	48,289	48,202	48,794
	大学進学希望者数	30,565	30,511	30,287	29,930	30,196	30,298
	大学志願率	62.0%	62.1%	61.8%	62.0%	62.6%	62.1%

(出所) 文部科学省学校基本調査資料

<https://www.e-stat.go.jp/>

千葉県内大学入学定員充足率

【資料14】

千葉県	2018 (H30) 年度	2019 (R元) 年度	2020 (R 2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度
学校数	25	25	25	25	25
志願倍率	7.90	9.57	10.69	10.40	12.14
充足率	103.21	107.49	105.74	99.91	97.45

(出所) 日本私立学校振興・共済事業団 私立大学・短期大学等入学志願動向

https://www.shigaku.go.jp/s_center_d_shigandoukou.htm

【資料15】

国際医療福祉大学 成田キャンパス 既設学部入試結果

国際医療福祉大学 医学部（定員数：140人）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実志願者数	2808	3281	3172	3050	3243
他学部・学科との併願者数（内数）	12	19	33	19	20
実受験者数	2724	3202	3101	2971	3166
合格者数	340	370	401	404	420
入学者数	140	140	140	140	140
志願倍率	20.06	23.44	22.66	21.79	23.16
入学定員充足率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

国際医療福祉大学 成田看護学部（定員数：100人）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実志願者数	401	555	509	492	546
他学部・学科との併願者数（内数）	79	113	122	137	128
実受験者数	393	546	503	485	535
実合格者数	188	203	211	207	206
入学者数	109	112	108	108	108
志願倍率	4.01	5.55	5.09	4.92	5.46
入学定員充足率	109.0%	112.0%	108.0%	108.0%	108.0%

国際医療福祉大学 成田保健医療学部（定員数：平成30、令和元年度240人 令和2～4年度290人）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実志願者数	619	767	1109	1101	978
他学部・学科との併願者数（内数）	112	172	353	319	292
実受験者数	610	759	1101	1093	966
実合格者数	377	388	524	531	475
入学者数	255	259	312	314	312
志願倍率	2.58	3.20	3.82	3.80	3.37
入学定員充足率	106.3%	107.9%	107.6%	108.3%	107.6%

【資料16】

都道府県別薬剤師 人口10万人対比表

順位	都道府県	①2020国勢調査人口 (単位：人)	②薬剤師数（人）	②/①*10万人（人）
1	高知県	691,527	1,068	154.4
2	東京都	14,047,594	19,884	141.5
3	静岡県	3,633,202	5,025	138.3
4	佐賀県	811,442	1,107	136.4
5	長崎県	1,312,317	1,787	136.1
6	宮城県	2,301,996	3,059	132.8
7	秋田県	959,502	1,273	132.6
8	福岡県	5,135,214	6,567	127.8
9	熊本県	1,738,301	2,184	125.6
10	長野県	2,048,011	2,560	125.0
11	香川県	950,244	1,097	115.4
12	山形県	1,068,027	1,224	114.6
13	兵庫県	5,465,002	6,220	113.8
14	岩手県	1,210,534	1,375	113.5
15	山梨県	809,974	919	113.4
16	山口県	1,342,059	1,522	113.4
17	福島県	1,833,152	2,078	113.3
18	岡山県	1,888,432	2,134	113.0
19	北海道	5,224,614	5,837	111.7
20	広島県	2,799,702	3,107	110.9
21	宮崎県	1,069,576	1,168	109.2
22	神奈川県	9,237,337	10,076	109.0
23	徳島県	719,559	780	108.4
24	鹿児島県	1,588,256	1,681	105.8
25	鳥取県	553,407	585	105.7
26	岐阜県	1,978,742	2,087	105.4
27	大阪府	8,837,685	9,297	105.2
28	新潟県	2,201,272	2,290	104.0
29	愛媛県	1,334,841	1,375	103.0
30	千葉県	6,284,480	6,390	101.6
31	大分県	1,123,852	1,125	100.0
32	埼玉県	7,344,765	7,207	98.1
33	青森県	1,237,984	1,213	97.9
34	石川県	1,132,526	1,102	97.3
35	茨城県	2,867,009	2,784	97.1
36	栃木県	1,933,146	1,864	96.4
37	和歌山県	922,584	872	94.5
38	島根県	671,126	626	93.2
39	群馬県	1,939,110	1,732	89.3
40	三重県	1,770,254	1,568	88.5
41	愛知県	7,542,415	6,654	88.2
42	奈良県	1,324,473	1,146	86.5
43	京都府	2,578,087	2,194	85.1
44	富山県	1,034,814	879	84.9
45	沖縄県	1,467,480	1,239	84.4
46	滋賀県	1,413,610	1,107	78.3
47	福井県	766,863	553	72.1
	合計	126,146,099	139,621	110.6

(出所)

JMAP地域医療情報システム（日本医師会）地域別統計

<https://jmap.jp/>

【資料17】

千葉県内の市区町村別薬剤師数

千葉県市区町村別	国勢調査人口（2020） (A)	薬剤師数 (B)	地域別指標 (B ÷ A × 10万人)
千葉市中央区	211,736	321	151.6
千葉市花見川区	177,328	149	84.0
千葉市稲毛区	160,582	169	105.2
千葉市若葉区	146,940	161	109.5
千葉市緑区	129,421	153	118.2
千葉市美浜区	148,944	166	111.4
銚子市	58,431	69	118.0
市川市	496,676	518	104.2
船橋市	642,907	667	103.7
館山市	45,153	64	141.7
木更津市	136,166	153	112.3
松戸市	498,232	533	106.9
野田市	152,638	124	81.2
茂原市	86,782	130	149.8
成田市	132,906	127	95.5
佐倉市	168,743	189	112.0
東金市	58,219	55	94.4
旭市	63,745	81	127.0
習志野市	176,197	208	118.0
柏市	426,468	452	105.9
勝浦市	16,927	10	59.0
市原市	269,524	241	89.4
流山市	199,849	175	87.5
八千代市	199,498	212	106.2
我孫子市	130,510	110	84.2
鴨川市	32,116	35	108.9
鎌ヶ谷市	109,932	75	68.2
君津市	82,206	63	76.6
富津市	42,465	34	80.0
浦安市	171,362	164	95.7
四街道市	93,576	70	74.8
袖ヶ浦市	63,883	47	73.5
八街市	67,455	58	85.9
印西市	102,609	109	106.2
白井市	62,441	51	81.6
富里市	49,735	39	78.4

南房総市	35,831	26	72.5
匝瑳市	35,040	33	94.1
香取市	72,356	68	93.9
山武市	48,444	40	82.5
いすみ市	35,544	40	112.5
大網白里市	48,129	49	101.8
酒々井町	20,745	17	81.9
栄町	20,127	12	59.6
神崎町	5,816	5	85.9
多古町	13,735	12	87.3
東庄町	13,228	4	30.2
九十九里町	14,639	20	136.6
芝山町	7,033	7	99.5
横芝光町	22,075	16	72.4
一宮町	11,897	12	100.8
睦沢町	6,760	4	59.1
長生村	13,803	9	65.2
白子町	10,305	5	48.5
長柄町	6,721	8	119.0
長南町	7,198	5	69.4
大多喜町	8,885	6	67.5
御宿町	6,874	2	29.0
鋸南町	6,993	8	114.4
千葉県合計	6,284,480	6390	101.6

(出所)

JMAP地域医療情報システム（日本医師会）地域別統計

<https://jmap.jp/>

【資料18】

人口10万人当たり 6 年制薬学課程定員数

(令和3年5月)

都道府県	①人口 (単位：千人)	総数			②/① (人)	順位
		学校数	②1学年定員	総定員		
01 北海道	5,183	3	370	2,220	7.1	24
02 青森	1,221	1	70	420	5.7	28
03 岩手	1,196	1	80	480	6.6	26
04 宮城	2,290	2	320	1,920	13.9	8
05 秋田	945	0	0	0	0.0	34
06 山形	1,055	0	0	0	0.0	34
07 福島	1,812	2	230	1,380	12.6	10
08 茨城	2,852	0	0	0	0.0	34
09 栃木	1,921	1	180	1,080	9.3	18
10 群馬	1,927	1	90	540	4.6	32
11 埼玉	7,340	2	490	2,940	6.6	27
12 千葉	6,275	6	864	5,184	13.7	9
13 東京	14,010	11	2,543	15,258	18.1	3
14 神奈川	9,236	1	470	2,820	5.0	31
15 新潟	2,177	1	180	1,080	8.2	21
16 富山	1,025	1	55	330	5.3	30
17 石川	1,125	2	190	1,140	16.8	5
18 福井	760	0	0	0	0.0	34
19 山梨	805	0	0	0	0.0	34
20 長野	2,033	0	0	0	0.0	34
21 岐阜	1,961	1	220	1,320	11.2	12
22 静岡	3,608	1	80	480	2.2	33
23 愛知	7,517	4	625	3,750	8.3	20
24 三重	1,756	1	100	600	5.6	29
25 滋賀	1,411	1	100	600	7.0	25
26 京都	2,561	3	500	3,000	19.5	2
27 大阪	8,806	5	884	5,304	10.0	16
28 兵庫	5,432	5	980	5,880	18.0	4
29 奈良	1,315	0	0	0	0.0	34
30 和歌山	914	1	100	600	10.9	13
31 鳥取	549	0	0	0	0.0	34
32 島根	665	0	0	0	0.0	34
33 岡山	1,876	2	140	840	7.4	23
34 広島	2,780	4	408	2,448	14.6	7
35 山口	1,328	1	120	720	9.0	19
36 徳島	712	2	170	1,020	23.8	1
37 香川	942	1	150	900	15.9	6
38 愛媛	1,321	1	100	600	7.5	22
39 高知	684	0	0	0	0.0	34
40 福岡	5,124	3	553	3,318	10.7	14
41 佐賀	806	0	0	0	0.0	34
42 長崎	1,297	2	160	960	12.3	11
43 熊本	1,728	2	175	1,050	10.1	15
44 大分	1,114	0	0	0	0.0	34
45 宮崎	1,061	1	100	600	9.4	17
46 鹿児島	1,576	0	0	0	0.0	34
47 沖縄	1,468	0	0	0	0.0	34
合計	125,500	76	11,797	70,782	9.4	

(出所)

薬科大学（薬学部）学科別一覧2021年（令和3年）度：文部科学省 薬学教育 基礎資料データ

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/08091815.htm

人口：総務省統計局「人口推計（2021（令和3）年10月1日現在）」

<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2021np/index.html>

【資料19】

本学既設の薬学部卒業生の附属病院・関連施設への就職状況

	年度		病院（人）		その他施設（人）		合計
			大学附属	その他関連	大学附属	その他関連	
薬学部 薬学科 (入学定員 180名)	R3年度	2021	4	0	0	1	5
	R2年度	2020	9	0	0	0	9
	R1年度	2019	4	0	0	0	4
	H30年度	2018	6	2	0	0	8
	H29年度	2017	13	2	0	0	15

大学附属病院

国際医療福祉大学病院

国際医療福祉大学三田病院

国際医療福祉大学熱海病院

国際医療福祉大学塩谷病院

国際医療福祉大学市川病院

国際医療福祉大学成田病院

令和4年11月吉日

薬剤師採用ご担当者様

国際医療福祉大学
学長 鈴木 康裕

アンケート調査ご協力をお願い

拝啓

向寒の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度本学は、新たに千葉県成田市に6年制の成田薬学部（仮称）を開設する準備を進めることとなりました。

開設に先立ち、人材需要の状況に関する皆様のご意見を把握すべく、下記の通りアンケート調査（無記名式）を行うこととなりました。つきましては、ご多忙の中誠に恐縮ではございますが、同封のパンフレットをご確認いただき、アンケートのご協力をお願いいたします。なお、本アンケートについては、集計結果の公表を予定しております。

敬具

記

1. アンケート調査内容： 本学成田薬学部（仮称）人材需要状況の調査（全8問）
2. 調査の回答期限： 令和4年12月26日
3. 回答手段： インターネット上にて（回答にはパスワードが必要です）

PCからはこちら

URL： <https://forms.gle/ZUkpWDAjJmDuJLvj8>

スマートフォンからはこちら

QRコード



パスワード： Iuhw1226

※本学成田キャンパスホームページ「トピックス」からも本アンケートにご回答いただくことができます。

4. 本件に関する問合せ先

国際医療福祉大学

教務企画部 担当：坂本 太郎

電話： 03-5574-3939 FAX： 03-5574-3856

Email： kyoumukikaku@iuhw.ac.jp

〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26

以上

国際医療福祉大学成田薬学部（仮称）人材需要状況の調査

*必須

- 1。 パスワードを入力してください *

国際医療福祉大学 成田薬学部（仮称）アンケート 問1～6

- 2。 *

問1. 貴機関・貴社の主業種をお答えください。
(あてはまるものを選択してください。)

1つだけマークしてください。

- ☐ 医療・保健（病院・診療所）
- ☐ 福祉・介護（老健・福祉施設）
- ☐ 小売
- ☐ 地方公務員（市区町村）
- ☐ 地方公務員（都道府県）
- ☐ その他

3. 問2. 貴機関・貴社の所在地をお答えください。＊
(あてはまるものを選択してください。)

1つだけマークしてください。

- ☐ 福島県
☐ 茨城県
☐ 栃木県
☐ 群馬県
☐ 埼玉県
☐ 千葉県
☐ 東京都
☐ 神奈川県
☐ 長野県
☐ 静岡県
☐ その他

4. 問3. 貴機関・貴社に所属している薬剤師（常勤・非常勤）の規模をお答えください。＊
(あてはまるものを選択してください。)

1行につき1つだけマークしてください。

	0人	1～3人	4～10人	11～50人	51～100人	101～200人	201～500人	501～1000人	1001人～
常勤	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
非常勤	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

5. 問4. 貴機関・貴社における、薬剤師の充足状況についてお答えください。＊
(あてはまるものを選択してください。)

1つだけマークしてください。

- ☐ 非常に不足している
☐ 不足している
☐ わからない
☐ ある程度充足している
☐ 充足している

6. 問5. 本学が設置構想中の「成田薬学部(仮称)」は、以下の教育目的（ディプロマ・ポリシー）を設定しています。

DP1：薬学に関する基礎および専門的な知識・技能をバランスよく有している。

DP2：問題の発見から解決までの一連のプロセスの中で、必要な情報を収集し、科学的根拠に基づき論理的に考え行動できる。

DP3：医療人を目指す者として、人間理解、国際的感覚を養い、相手に寄り添ったコミュニケーションを実施できる。

DP4：薬剤師を目指す者として、使命感・倫理観・責任感を養い、他職種との連携を通して薬剤師の役割を理解、実践できる。

DP5：保健・医療・福祉について、日本にとどまらず世界の情勢を広く理解し、地域に貢献する姿勢と実践能力を有している。

DP6：医療の担い手を目指す者として、幅広い教養と豊かな人間性を育み、生涯にわたって自他ともに研鑽しあえる姿勢および意欲を有している。

DP7：生命科学的知識および研究マインドを基に、薬物療法を実践する能力を有している。

このような人材養成について、どの程度必要性を感じますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 非常に必要性を感じる
- ☐ ある程度必要性を感じる
- ☐ わからない
- ☐ あまり必要性を感じない
- ☐ 必要性を感じない

7. 問6. 本学が設置構想中の「成田薬学部(仮称)」を卒業した人材を、将来、薬剤師として採用したいと思いますか。 *

(あてはまるものを選択してください。)

1つだけマークしてください。

- ☐ 採用したい 質問 8 にスキップします
- ☐ 採用を検討したい 質問 8 にスキップします
- ☐ わからない 質問 9 にスキップします
- ☐ 採用を希望しない 質問 9 にスキップします

問 7

8. 問7. 問6で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」と回答した方は、採用可能であると思われる人数をお答えください。 *

(あてはまるものを選択してください。)

1つだけマークしてください。

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人
- ☐ 4人
- ☐ 5人以上
- ☐ 人数は未確定

問 8

9. 問8 本学が設置構想中の「成田薬学部(仮称)」にご意見・ご要望等ございましたら、お聞かせください。(自由記述)

国際医療福祉大学成田薬学部(仮称) 人材需要状況の調査 アンケート結果

問1. 貴機関・貴社の主業種をお答えください。

(あてはまるものを選択してください。)

回答	回答数	割合
医療・保健（病院・診療所）	143 件	70.8%
福祉・介護（老健・福祉施設）	1 件	0.5%
小売	35 件	17.3%
地方公務員（市区町村）	5 件	2.5%
地方公務員（都道府県）	3 件	1.5%
その他	15 件	7.4%
合計	202 件	100.0%

問2. 貴機関・貴社の所在地をお答えください。

(あてはまるものを選択してください。)

回答	回答数	送付通数	不着通数	有効送付通数	回収率
東京都	58	224通	4通	220通	26.4%
神奈川県	32	119通	2通	117通	27.4%
埼玉県	25	114通	0通	114通	21.9%
千葉県	30	90通	2通	88通	34.1%
茨城県	25	85通	2通	83通	30.1%
栃木県	31	81通	0通	81通	38.3%
その他	1	0通	通	0通	—
合計	202	713通	10通	703通	28.7%

問3. 貴機関・貴社に所属している薬剤師（常勤・非常勤）の規模をお答えください。

(あてはまるものを選択してください。)

回答	回答数
1001人～	11
501～1000人	1
201～500人	12
101～200人	9
51～100人	17
11～50人	97
4～10人	34
1～3人	21
0人	0
合計	202

問4. 貴機関・貴社における、薬剤師の充足状況についてお答えください。

(あてはまるものを選択してください。)

回答	回答数	割合
非常に不足している	36	17.8%
不足している	102	50.5%
ある程度充足している	56	27.7%
充足している	7	3.5%
わからない	1	0.5%
合計	202	100.0%

問5. 本学が設置構想中の「成田薬学部(仮称)」は、以下の教育目的（ディプロマ・ポリシー）を設定しています。

DP1：薬学に関する基礎および専門的な知識・技能をバランスよく有している。

DP2：問題の発見から解決までの一連のプロセスの中で、必要な情報を収集し、科学的根拠に基づき論理的に考え行動できる。

DP3：医療人をを目指す者として、人間理解、国際的感覚を養い、相手に寄り添ったコミュニケーションを実施できる。

DP4：薬剤師を目指す者として、使命感・倫理観・責任感を養い、他職種との連携を通して薬剤師の役割を理解、実践できる。

DP5：保健・医療・福祉について、日本にとどまらず世界の情勢を広く理解し、地域に貢献する姿勢と実践能力を有している。

DP6：医療の担い手を目指す者として、幅広い教養と豊かな人間性を育み、生涯にわたって自他ともに研鑽しあえる姿勢および意欲を有している。

DP7：生命科学的知識および研究マインドを基に、薬物療法を実践する能力を有している。

このような人材養成について、どの程度必要性を感じますか。

非常に必要性を感じる	120 件	59.4%
ある程度必要性を感じる	73 件	36.1%
わからない	6 件	3.0%
あまり必要性を感じない	3 件	1.5%
必要性を感じない	0 件	0.0%
合計	202 件	100.0%

問6. 本学が設置構想中の「成田薬学部(仮称)」を卒業した人材を、将来、薬剤師として採用したいと思いますか。

(あてはまるものを選択してください。)

回答	件数
採用したい	98
採用を検討したい	71
わからない	30
採用を希望しない	3
合計	202

問7. 問6で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」と回答した方は、採用可能であると思われる人数をお答えください。

(あてはまるものを選択してください。)

「採用したい」と回答した方のうち

回答	件数
人数は未確定（1人としてカウント）	37
1人	15
2人	23
3人	5
4人	3
5人以上（5人としてカウント）	15

（「採用を検討したい」と回答した方のうち）

回答	件数
人数は未確定（1人としてカウント）	45
1人	11
2人	11
3人	3
4人	1
5人以上（5人としてカウント）	0

問8 本学が設置構想中の「成田薬学部(仮称)」にご意見・ご要望等ございましたら、お聞かせください。(自由記述)

※省略

その他

1) 事業所の所在地別にみた薬剤師の充足状況について

事業所の所在地別 薬剤師の充足状況

各回答の件数

事業所の所在地	薬剤師の充足状況					合計	送付通数	不着通数	有効送付通数	回収率
	非常に不足している	不足している	わからない	ある程度充足している	充足している					
東京都	6	31	0	20	1	58	224通	4通	220通	26.4%
神奈川県	4	16	0	11	1	32	119通	2通	117通	27.4%
埼玉県	1	16	0	7	1	25	114通	0通	114通	21.9%
千葉県	10	13	1	5	1	30	90通	2通	88通	34.1%
茨城県	11	11	0	2	1	25	85通	2通	83通	30.1%
栃木県	4	14	0	11	2	31	81通	0通	81通	38.3%
その他	0	1	0	0	0	1	0通	—	0通	—
合計	36	102	1	56	7	202	713通	10通	703通	28.7%

各回答の割合

事業所の所在地	薬剤師の充足状況					合計
	非常に不足している	不足している	わからない	ある程度充足している	充足している	
東京都	10.3%	53.4%	0.0%	34.5%	1.7%	100%
神奈川県	12.5%	50.0%	0.0%	34.4%	3.1%	100%
埼玉県	4.0%	64.0%	0.0%	28.0%	4.0%	100%
千葉県	33.3%	43.3%	3.3%	16.7%	3.3%	100%
茨城県	44.0%	44.0%	0.0%	8.0%	4.0%	100%
栃木県	12.9%	45.2%	0.0%	35.5%	6.5%	100%
その他	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%

設置予定地である千葉県からは 33.3%、隣接地であり、既設の薬学部が存在しない茨城県からは 44.0%と、特に高い割合で薬剤師が非常に不足している旨の回答が得られた。

2) 事業者の業種別にみた薬剤師の充足状況について

事業者の業種別 薬剤師の充足状況
各回答の件数

		貴機関・貴社における薬剤師の充足状況									
		非常に不足している	不足している	わからない	ある程度充足している	充足している	合計	送付通数	不着通数	有効送付通数	回収率
業 種	医療・保健（病院・診療所）	34	73	1	30	5	143	506 通	2通	504通	28.4%
	福祉・介護（老健・福祉施設）	0	0	0	1	0	1	8 通	0通	8通	12.5%
	小売	0	17	0	17	1	35	158 通	6通	152通	23.0%
	その他	2	8	0	4	1	15	21 通	0通	21通	71.4%
	地方公務員（都道府県）	0	2	0	1	0	3	20 通	2通	18通	44.4%
	地方公務員（市区町村）	0	2	0	3	0	5				
	合計	36	102	1	56	7	202	713 通	10通	703通	28.7%

各回答の割合

		貴機関・貴社における薬剤師の充足状況					
		非常に不足している	不足している	わからない	ある程度充足している	充足している	合計
業 種	医療・保健（病院・診療所）	23.8%	51.0%	0.7%	21.0%	3.5%	100%
	福祉・介護（老健・福祉施設）	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%
	小売	0.0%	48.6%	0.0%	48.6%	2.9%	100%
	その他	13.3%	53.3%	0.0%	26.7%	6.7%	100%
	地方公務員（都道府県）	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100%
	地方公務員（市区町村）	0.0%	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%	100%
	合計						

回答した事業者の業種別にみると、「医療・保健（病院・診療所）」では「不足している」が51.0%、「非常に不足している」が23.8%であり、「医療・保健（病院・診療所）」に従事する多くの事業者において薬剤師が充足しておらず、非常に需要が高い状況を伺い知ることができる。また、次に回答数の多い「小売」でも半数近い48.6%が「不足している」と回答している。

3）事業者の業種別にみた成田薬学部卒業者への採用意志について

事業所の業種別 成田薬学部卒業者への採用の意志
各回答の件数

		成田薬学部卒業者に対する採用の意志								
		採用したい	採用を検討したい	わからない	採用を希望しない	合計	送付通数	不着通数	有効送付通数	回収率
業 種	医療・保健（病院・診療所）	67	49	24	3	143	506 通	2通	504通	28.4%
	福祉・介護（老健・福祉施設）	1	0	0	0	1	8 通	0通	8通	12.5%
	小売	21	12	2	0	35	158 通	6通	152通	23.0%
	その他	6	7	2	0	15	21 通	0通	21通	71.4%
	地方公務員（都道府県）	2	1	0	0	3	20 通	2通	18通	44.4%
	地方公務員（市区町村）	1	2	2	0	5				
	合計	98	71	30	3	202	713 通	10通	703通	28.7%

各回答の割合

成田薬学部卒業者に対する採用の意志

業 種		採用したい	採用を 検討したい	わからない	採用を 希望しない	合計
	医療・保健（病院・診療所）	46.9%	34.3%	16.8%	2.1%	100%
	福祉・介護（老健・福祉施設）	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	小売	60.0%	34.3%	5.7%	0.0%	100%
	その他	40.0%	46.7%	13.3%	0.0%	100%
	地方公務員（都道府県）	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
	地方公務員（市区町村）	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	100%

上記２）で示されたとおり、薬剤師が不足していることが顕著な「医療・保健（病院・診療所）」からは「採用したい」67件、「採用を検討したい」49件と、本学成田薬学部卒業生を採用することに向けて多数の非常に前向きな回答が寄せられている。

４）事業者の所在地別にみた採用の意志について

事業所の所在地別 成田薬学部卒業者に対する採用の意志
各回答の件数

成田薬学部卒業者に対する採用の意志

事 業 所 の 所 在 地		採用したい	採用を 検討したい	わからない	採用を 希望しない	合計	送付通数	不着通数	有効 送付通数	回収率
	東京都	27	22	9	0	58	224 通	4通	220通	26.4%
	神奈川県	17	8	6	1	32	119 通	2通	117通	27.4%
	埼玉県	8	11	6	0	25	114 通	0通	114通	21.9%
	千葉県	20	5	5	0	30	90 通	2通	88通	34.1%
	茨城県	14	9	1	1	25	85 通	2通	83通	30.1%
	栃木県	12	15	3	1	31	81 通	0通	81通	38.3%
	その他	0	1	0	0	1	0 通	—	0通	—
	合計	98	71	30	3	202	713 通	10通	703通	28.7%

各回答の割合

成田薬学部卒業者に対する採用の意志

事業所の所在地		採用したい	採用を検討したい	わからない	採用を希望しない	合計
	東京都	46.6%	37.9%	15.5%	0.0%	100%
	神奈川県	53.1%	25.0%	18.8%	3.1%	100%
	埼玉県	32.0%	44.0%	24.0%	0.0%	100%
	千葉県	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	100%
	茨城県	56.0%	36.0%	4.0%	4.0%	100%
	栃木県	38.7%	48.4%	9.7%	3.2%	100%

事業者の所在地別にみると、成田薬学部設置予定地である千葉県の事業者からは特に高い66.7%の「卒業生を採用したい」という回答が回収されており、設置予定地においても、成田薬学部卒業者に対する高い需要が存在すると考えられる。

また、設置予定地隣接地であり既設の薬学部が存在しない茨城県からも56.0%という非常に高い割合の「卒業生を採用したい」という回答が得られた。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	スズキ ヤスヒロ 鈴木 康裕 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		国際医療福祉大学 学長 (令和4.4～令和7.3)

教 員 の 氏 名 等												
(成田薬学部薬学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
1	専	教授 (学部長) (学科長)	ヨネモチ エツオ 米持 悦生 ＜令和6年4月＞		薬学 博士		薬学概論 早期体験実習 薬品物理化学Ⅰ(物性とエネルギー) 薬品物理化学Ⅱ(平衡と変化) 物理系薬学実習 物理薬剤学 薬剤学実習 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	1前 1後 1後 2前 2後 3前 3前 3前 5・6通 4前 6前 6後	2 1 2 2 1 1 1 1 8 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	星薬科大学 薬学部薬学科長 教授 (平25.4)	5日
2	専	教授	アイザワ ヒトシ 相澤 仁志 ＜令和6年4月＞		医学 博士		疾病と病態生理学Ⅰ(内分泌系、神経精神系、循環器系疾患) 卒業研究 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2前 5・6通 6前 6後	2 8 1 1	1 1 1 1	国際医療福祉大学 臨床医学研究センター 教授 (令4.4)	5日
3	専	教授	コチ ミツグ 東風 貢 ＜令和8年4月＞		医学 博士		がん薬物療法学 卒業研究 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	3後 5・6通 6前 6後	2 8 1 1	1 1 1 1	国際医療福祉大学 市川病院 教授 (令4.9)	5日
4	専	教授	クグ コウジ 久具 宏司 ＜令和6年4月＞		医学 博士		疾病と病態生理学Ⅱ(消化器系、呼吸器系、代謝性疾患) 卒業研究 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2後 5・6通 6前 6後	2 8 1 1	1 1 1 1	国際医療福祉大学 成田病院 教授 (令5.4)	5日
5	専	教授	イツツ ケンイチ 伊豆津 健一 ＜令和6年4月＞		博士 (薬学)		医薬品レギュラトリーサイエンス概論□ 分析化学Ⅰ(化学平衡と滴定) 分析化学Ⅱ(機器分析) 日本薬局方Ⅰ(通則、総則、一般試験法) 日本薬局方Ⅱ(代表的な医薬品の試験と生産管理) 物理系薬学実習 医薬品安全性学 製剤設計とDDS 薬物動態学 薬剤学実習 衛生系薬学実習 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	6前 1後 2前 3後 3前 6前 2後 4後 3後 4前 3前 3前 3前 5・6通 4前 6前 6後	1 2 2 1 1 1 1 2 2 2 1 1 8 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 薬学部 教授 (令5.4)	5日

6	専	教授	ナガラ ユキノリ 永倉 透記 〈令和8年4月〉		博士 (薬学)		薬理学Ⅲ(免疫・炎症薬理、循環器薬理、消化器薬理等) 薬理学Ⅳ(呼吸器薬理、内分泌薬理等) 薬物治療Ⅰ(神経精神系疾患、内分泌系疾患等) 薬物治療Ⅲ(症例・病態解析) 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	3前 3後 4後 6前 5・6通 4前 6前 6後	2 1 2 1 8 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 福岡薬学部 教授 (平31.4)	5日
7	専	教授	フルカワ ヨシコ 古川 佳子 〈令和6年4月〉		博士 (医学)		疾病と病態生理学Ⅱ(消化器系、呼吸器系、代謝性疾患) 卒業研究 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2後 5・6通 6前 6後	2 8 1 1	1 1 1 1	国際医療福祉大学 臨床医学研究センター 准教授 (平19.10)	5日
8	専	教授	キノシタ ヨウコ 木下 陽子 〈令和6年4月〉		博士 (医学)		疾病と病態生理学Ⅰ(内分泌系、神経精神系、循環器系疾患) 卒業研究 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2前 5・6通 6前 6後	2 8 1 1	1 1 1 1	国際医療福祉大学 成田病院 准教授 (平30.4)	5日
9	専	教授	イムロ サトシ 飯室 聡 〈令和6年4月〉		博士 (医学)		公衆衛生Ⅰ(保健統計、疫学、制度) 公衆衛生Ⅱ(感染症と予防) 卒業研究 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2後 3後 5・6通 6前 6後	2 1 8 1 1	1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 未来研究支援センター 教授 (平31.4)	5日
10	専	教授	ホリノウチ タカヒロ 堀之内 孝広 〈令和7年4月〉		博士 (薬学)		放射化学 免疫学 解剖生理学Ⅱ(神経系、内分泌系) 薬理学Ⅰ(総論) 薬理学Ⅱ(末梢神経薬理、中枢神経薬理等) 薬物治療Ⅱ(循環器系疾患、呼吸器系疾患等) 生物系薬学実習 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2前 3前 2前 2前 2後 4後 3後 5・6通 4前 6前 6後	2 2 2 1 2 2 1 8 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	北海道大学大学院 医学研究院 講師 (平18.2)	5日
11	専	教授	サトウ タダアキ 佐藤 忠章 〈令和6年4月〉		博士 (薬学)		関連職種連携ワーク 薬学演習Ⅰ(物理・化学・生物：基礎) 基礎薬学実習 生薬学 天然物化学 医薬品構造化学Ⅱ(代表的医薬品の構造と作用) 化学系薬学実習Ⅱ(天然資源) 漢方医学Ⅰ(漢方の基礎) 漢方医学Ⅱ(漢方の応用) 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	3前 2後 1後 2前 2後 6前 2後 3後 4前 5・6通 4前 6前 6後	1 1 1 2 1 1 1 2 2 8 2 1 1	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 薬学部 准教授 (平29.4)	5日

12	専	教授	ニシムラ カズヒロ 西村 和洋 〈令和6年4月〉	博士 (薬学)		生物学 薬学演習Ⅱ(物理・化学・生物：応用) 生化学Ⅰ(生体分子) 生化学Ⅱ(生体エネルギー・代謝) 解剖生理学Ⅰ(外皮系、骨格系・筋肉系、循環器系) 分子生物学実習Ⅰ ゲノム医療 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	1前 3前 1後 2前 1後 3前 3後 5・6通 4前 6前 6後	2 1 2 2 2 1 1 8 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 薬学部 教授 (令2.4)	5日
13	専	教授	トヨトメ タカヒト 豊留 孝仁 〈令和7年4月〉	博士 (医学)		病原微生物学 分子生物学 細胞生物学 免疫微生物学実習 化学療法学 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2後 2前 2後 3後 3前 5・6通 4前 6前 6後	2 2 1 1 2 8 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	帯広畜産大学 獣医学研究部門 准教授 (平24.10)	5日
14	専	教授	サカモト マサシ 坂本 真史 〈令和6年4月〉	法務 博士 (専門職)		法学 エビデンスベースドプラクティス(研究と文献) 医療関連法規Ⅰ(医薬品全般に関わる法律) 医療関連法規Ⅱ(医薬品開発と薬害に関する法律の理解) 卒業研究 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	1前 1・2・3・4・5・6前 3前 4前 5・6通 6前 6後	2 1 1 1 8 1 1	1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 総合教育センター 准教授 (平29.4)	5日
15	専	教授	ヨシムラ トモユキ 吉村 智之 〈令和6年4月〉	博士 (薬学)		コミュニケーション実習 有機化学Ⅰ(脂肪族化合物1) 有機化学Ⅱ(脂肪族化合物2) 有機化学Ⅲ(芳香族化合物) 生物有機化学 医薬品構造化学Ⅰ(コア構造と作用機構) 医薬品構造解析演習 化学系薬学実習Ⅰ(有機合成) 有機化学演習 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2前 1後 2前 2後 3前 4前 2後 2前 1後 5・6通 4前 6前 6後	1 2 2 2 1 1 1 1 1 8 2 1 1	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健学研究域薬学系 准教授 (令元.9)	5日
16	専	准教授	ユタカ コウコ 豊 浩子 〈令和6年4月〉	博士 (図書館情報学)		英語講読1(Primary) 英語講読2(Basic) 英語C A L L 1(Primary) 英語C A L L 2(Basic) 英語ライティング1(Primary) 英語ライティング2(Basic)	1後 2前 1前 2後 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 3 3 1 1	国際医療福祉大学 総合教育センター 准教授 (令5.4)	5日
17	専	准教授	タケモト ヒロアキ 竹元 裕明 〈令和7年4月〉	博士 (薬学)		コミュニケーション実習 化学系薬学実習Ⅱ(天然資源) 生物系薬学実習 衛生化学Ⅰ(食品・栄養) 衛生化学Ⅱ(毒性・代謝) 環境衛生学 衛生系薬学実習 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2前 2後 3後 2後 3前 3前 3前 5・6通 4前 6前 6後	1 1 1 2 2 2 1 8 2 1 1	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東邦大学 薬学部 講師 (平30.4)	5日

18	専	准教授	マミヤ ヒロアキ 間宮 弘晃 〈令和6年4月〉		博士 (薬科学)	医療データサイエンスⅠ(DS基礎) 医療データサイエンスⅡ(AI基礎) 医療データサイエンス概論 医療データサイエンス演習 基礎統計学 医薬品情報学Ⅱ(EBMと臨床研究) 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(主として物理・化学・生物・衛生) 総合薬学演習Ⅱ(主として薬理・薬剤・病態・実務)	2・3・4・5・6前 2・3・4・5・6後 4後 6前 1後 4前 5・6通 4前 6前 6後	1 1 1 1 1 1 8 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 薬学部 准教授 (令5.4)	5日
19	専	講師	カナヤ タカユキ 金谷 貴行 〈令和7年4月〉		博士 (薬学)	医薬品構造解析演習 化学系薬学実習Ⅰ(有機合成) 化学系薬学実習Ⅱ(天然資源) 有機化学演習 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	2後 2前 2後 1後 4前 6前 6後	1 1 1 1 2 1 1	1 2 2 1 1 1 1	国際医療福祉大学 薬学部 講師 (平23.4)	5日
20	専	講師	ウシジマ ヒロノリ 牛島 弘雅 〈令和6年4月〉		博士 (薬学)	早期体験実習 分析化学Ⅲ(分離分析と臨床分析) 物理系薬学実習 薬剤学実習 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	1後 3前 2後 3前 4前 6前 6後	1 2 1 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1	岩手医科大学 薬学部 助教 (平20.4)	5日
21	専	講師	ヨネダ トモキ 米田 友貴 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	化学□ 基礎薬学実習□ 物理系薬学実習□ 化学系薬学実習Ⅰ(有機合成)□ 化学系薬学実習Ⅱ(天然資源)□ 有機化学演習□ 実務実習事前演習□ 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認)□ 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	1前 1後 2後 2前 2後 1後 4前 6前 6後	2 1 1 1 1 1 2 1 1	1 1 1 2 2 1 1 1	北海道大学 工学部 助教 (平30.9)	5日
22	専	助教	タカハシ コウヘイ 高橋 浩平 〈令和7年4月〉		博士 (薬科学)	フィジカルアセスメント実習 薬剤学実習 衛生系薬学実習 実務実習事前演習	4前 3前 3前 4前	1 1 1 2	1 1 1 1	国際医療福祉大学 薬学部 助教 (平31.4)	5日
23	専	助教	シバタ ユキヒロ 柴田 侑裕 〈令和6年4月〉		博士 (薬学)	コミュニケーション実習 基礎薬学実習 医療データサイエンス演習 早期体験実習 分子生物学実習 免疫微生物学実習 フィジカルアセスメント実習 実務実習事前演習	2前 1後 6前 1後 3前 3後 4前 4前	1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋市立大学 薬学研究科 助教 (令3.4)	5日
24	専	助教	オオハシ ユウキ 大橋 勇紀 〈令和6年4月〉		博士 (薬学)	コミュニケーション実習 早期体験実習 分子生物学実習 免疫微生物学実習 生物系薬学実習 実務実習事前演習	2前 1後 3前 3後 3後 4前	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 薬学部 助教 (令5.4)	5日
25	専	助教	ササキ ショウト 佐々木 翔斗 〈令和6年4月〉		博士 (薬学)	基礎薬学実習 早期体験実習 分子生物学実習 免疫微生物学実習 生物系薬学実習 実務実習事前演習	1後 1後 3前 3後 3後 4前	1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 薬学部 助教 (令5.4)	5日

26	実専	教授	トミタ タカシ 富田 隆 〈令和6年4月〉	博士 (薬学)		薬学演習Ⅲ(医療倫理・ヒューマンズム) OTC医薬品概論 医薬品情報学Ⅰ(医薬品情報の収集と活用) フィジカルアセスメント実習 臨床薬物動態学 臨床薬学Ⅰ(調剤の基礎) 臨床薬学Ⅱ(調剤の実践)□ 医療系薬学実習Ⅰ(調剤の基礎と情報収集) 医療系薬学実習Ⅱ(調剤の実践と服薬指導) 医療系薬学実習Ⅲ(薬物療法の実践) 薬局実務実習 病院実務実習 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	3後 3後 3後 4前 4後 3後 4前 4前 4前 4前 4後 5・6通 5・6通 5・6通 4前 6前 6後	1 2 2 1 2 2 2 1 1 1 1 10 10 8 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帝京平成大学 薬学部 教授 (平31.4)	5日
27	実専	准教授	シノザキ コウジ 篠崎 浩司 〈令和8年4月〉	博士 (薬学)		臨床薬学Ⅲ(薬物療法の実践) 臨床薬学Ⅳ(チーム医療・地域医療の実践その前に) 医療系薬学実習Ⅰ(調剤の基礎と情報収集) 医療系薬学実習Ⅱ(調剤の実践と服薬指導) 医療系薬学実習Ⅲ(薬物療法の実践) 薬局実務実習 病院実務実習 卒業研究 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	4後 4後 4前 4前 4後 5・6通 5・6通 5・6通 4前 6前 6後	2 1 1 1 1 10 10 8 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 成田病院薬剤部 副部長 (令3.9)	5日
28	実専	講師	マスダ コウジ 樹田 浩司 〈令和8年4月〉	学士 (薬学)		医療系薬学実習Ⅰ(調剤の基礎と情報収集) 医療系薬学実習Ⅱ(調剤の実践と服薬指導) 医療系薬学実習Ⅲ(薬物療法の実践) 薬局実務実習 病院実務実習 実務実習事前演習 総合薬学演習Ⅰ(薬剤師の使命を含む基礎項目の確認) 総合薬学演習Ⅱ(理解力および問題解決能力の養成)	4前 4前 4後 5・6通 5・6通 4前 6前 6後	1 1 1 10 10 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 成田病院薬剤部 副主任 (令2.10)	5日
29	実専	助教	ナガセ トモキ 長瀬 友樹 〈令和8年4月〉	学士 (薬学)		医療系薬学実習Ⅰ(調剤の基礎と情報収集) 医療系薬学実習Ⅱ(調剤の実践と服薬指導) 医療系薬学実習Ⅲ(薬物療法の実践) 薬局実務実習 病院実務実習 実務実習事前演習	4前 4前 4後 5・6通 5・6通 4前	1 1 1 10 10 2	1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 成田病院薬剤部 副主任 (令2.3)	5日
30	実専	助教	サトウ ヨシミ 佐藤 慶三 〈令和9年4月〉	修士 (薬学)		医療系薬学実習Ⅰ(調剤の基礎と情報収集) 医療系薬学実習Ⅱ(調剤の実践と服薬指導) 医療系薬学実習Ⅲ(薬物療法の実践) 薬局実務実習 病院実務実習 実務実習事前演習	4前 4前 4後 5・6通 5・6通 4前	1 1 1 10 10 2	1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 三田病院薬剤部 主任 (平23.4)	5日
31	実専	助教	ヨシノ サダアキ 吉野 禎章 〈令和8年4月〉	学士 (薬学)		医療系薬学実習Ⅰ(調剤の基礎と情報収集) 医療系薬学実習Ⅱ(調剤の実践と服薬指導) 医療系薬学実習Ⅲ(薬物療法の実践) 薬局実務実習 病院実務実習 実務実習事前演習	4前 4前 4後 5・6通 5・6通 4前	1 1 1 10 10 2	1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 成田病院薬剤部 副主任 (令2.3)	5日
32	実専	助教	シミズ カナコ 清水 加奈子 〈令和9年4月〉	博士 (薬学)		医療系薬学実習Ⅰ(調剤の基礎と情報収集) 医療系薬学実習Ⅱ(調剤の実践と服薬指導) 医療系薬学実習Ⅲ(薬物療法の実践) 薬局実務実習 病院実務実習 実務実習事前演習	4前 4前 4後 5・6通 5・6通 4前	1 1 1 10 10 2	1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 三田病院薬剤部 (平26.4)	5日
33	兼担	教授	キムラ タカハシ 木村 伊量 〈令和6年4月〉	政治 学士		人間学 医療福祉教養講義	1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後	2 1	1 1	国際医療福祉大学 大学院 特任教授 (平17.4)	

34	兼担	教授	カスシ シゲフミ 高須賀 茂文 〈令和7年4月〉		修士 (ジャーナリス ム)		海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2前 2後	1 1	1 1	国際医療福祉大学 特任教授 (令5.4)	
35	兼担	教授	ナガサキ ミツキ 長沢 光章 〈令和6年4月〉		博士 (医学)		感染と免疫	1・2・3・4・5・6後	2	1	国際医療福祉大学 大学院 教授 (令5.4)	
36	兼担	教授	タカハシ ユウ 田中 泰郎 〈令和6年4月〉		MA TEFL/TESL(University of Birmingham)		基礎英文法1(Primary) 基礎英文法2(Basic)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1	1 1	国際医療福祉大学 総合教育センター 准教授 (平成28.4)	
37	兼担	教授	ハシ カズミ 林 和美 〈令和6年4月〉		博士 (社会福祉 学)		ボランティア論コーディネート論	1・2・3・4・5・6前	2	1	国際医療福祉大学 医療福祉学部 教授 (平18.4)	
38	兼担	教授	セイメイ マサリ 清宮 正徳 〈令和9年4月〉		博士 (医学)		臨床検査医学	4前	2	1	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 教授 (平28.4)	
39	兼担	教授	ゴトウ タカノブ 後藤 純信 〈令和6年4月〉		博士 (医学)		国際医療福祉論	1・2・3・4・5・6前	2	1	国際医療福祉大学 医学部 教授 (平29.4)	
40	兼担	教授	オカダ ヨシエ 岡田 佳詠 〈令和9年4月〉		博士 (看護学)		我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	4前	1	1	国際医療福祉大学 成田看護学部 教授 (平29.4)	
41	兼担	教授	ヤマモト ヒデアキ 山本 秀也 〈令和6年4月〉		哲学士		アジア諸国の経済・社会・文化 世界の中の和文化 マスメディア論 新聞で見た日本と世界 国際関係論 郷土論 中国語入門(会話含む) 中国語基礎(会話含む)	1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	2 1 2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 総合教育センター 特任教授 (令2.4)	
42	兼担	教授	イケガキ シュンヤ 池田 俊也 〈令和7年4月〉		博士 (医学)		リスクマネジメント論	2・3・4・5・6前	2	1	国際医療福祉大学 大学院 教授 (平30.4)	
43	兼担	教授	カトリ ナオコ 加藤 尚子 〈令和6年4月〉		博士 (ヒューマン・ケア 科学)		文化人類学	1・2・3・4・5・6前	2	1	国際医療福祉大学 医療福祉学部 教授 (平10.4)	
44	兼担	教授	タニグチ タカミチ 谷口 敬道 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		メディカルマナー入門 リハビリテーション概論	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前	2 2	1 1	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 教授 (平成20.4)	
45	兼担	教授	ウチダ シンヤ 内田 信也 〈令和10年4月〉		博士 (医学)		関連職種連携実習	5前	1	1	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 教授 (平21.4)	
46	兼担	教授	サイトウ マサミ 齋藤 正美 〈令和6年4月〉		修士 (教育学)		災害保健学	1・2・3・4・5・6前	1	1	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 教授 (令2.4)	
47	兼担	教授	イシヤマ レイコ 石山 麗子 〈令和6年4月〉		博士 (医療福祉 学)		ケアマネジメント論	1・2・3・4・5・6後	1	1	国際医療福祉大学 大学院 教授 (平30.4)	
48	兼担	教授	ミヤコマ ヒロユキ 宮嶋 宏行 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報- 物理 データリテラシー 人間工学 医療情報学概論 電子カルテシステム入門	1後 1前 1前 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後 2後	1 2 1 2 2 1	1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 総合教育センター 教授 (平28.4)	

49	兼担	教授	オミ カズキ 押味 貴之 〈令和6年4月〉		学士 (医学)		上級英語会話1(発展) 上級英語会話2(総合) 国際医療通訳入門	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後	1 1 1	1 1 1	国際医療福祉大学 医学部 教授 (平29.4)	
50	兼担	教授	シガ カツ 志賀 隆 〈令和6年4月〉		博士 (医学)		救急医学	1・2・3・4・5・6後	1	1	国際医療福祉大学 医学部 教授 (平29.4)	
51	兼担	教授	ニシタ ユウスケ 西田 裕介 〈令和6年4月〉		博士 (保健医療学)		大学入門講座-医療人・社会人として成長するために- 関連職種連携論 医学/医療史	1前 2後 1・2・3・4・5・6前	1 2 2	1 1 1	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 教授 (平28.4)	
52	兼担	准教授	ミヤマ ナホ 光山 奈保子 〈令和6年4月〉		博士 (学術)		経済の仕組み 経済の歴史 世界の経済	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6前	2 2 2	1 1 1	国際医療福祉大学 総合教育センター 准教授 (平成30.4)	
53	兼担	准教授	ホリタ ヒデキ 堀田 英樹 〈令和6年4月〉		博士 (医学)		レクリエーション概論	1・2・3・4・5・6前	1	1	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 准教授 (平26.4)	
54	兼担	准教授	オカムラ ナオシ 岡村 直利 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		数学	1前	2	1	国際医療福祉大学 保健医療学部 准教授 (平25.4)	
55	兼担	准教授	ヤマグチ ヨシコ 山口 佳子 〈令和6年4月〉		修士 (社会福祉学)		ケースワーク論 社会福祉学	1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後	1 2	1 1	国際医療福祉大学 医療福祉学部 准教授 (平24.4)	
56	兼担	准教授	オカムラ セリナ 岡村 世里奈 〈令和6年4月〉		修士 (法学)		医療管理学	1・2・3・4・5・6後	2	1	国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マ ネジメント学部 准教授 (平13.4)	
57	兼担	准教授	フカイ ユスル 福井 譲 〈令和6年4月〉		博士 (学術)		歴史学 日本近現代史	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	2 2	1 1	国際医療福祉大学 総合教育センター 准教授 (平26.4)	
58	兼担	准教授	ハシモト カズノリ 橋本 和典 〈令和6年4月〉		博士 (教育学)		心理学	1前	2	1	国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マ ネジメント学部 准教授 (令2.4)	
59	兼担	准教授	オオイ タケシ 大石 剛史 〈令和6年4月〉		博士 (社会福祉学)		ボランティア論	1・2・3・4・5・6前	2	1	国際医療福祉大学 医療福祉学部 准教授 (平12.4)	
60	兼担	准教授	サメガワ セイジ 鯨川 誠司 〈令和6年4月〉		修士 (法学)		法と道徳・倫理	1・2・3・4・5・6後	2	1	国際医療福祉大学 総合教育センター 准教授 (平29.4)	
61	兼担	講師	スズキ トモコ 鈴木 知子 〈令和6年4月〉		博士 (薬学)		疫学・保健医療統計学	1・2・3・4・5・6前	2	1	国際医療福祉大学 医学部 講師 (令3.9)	
62	兼担	講師	ナカイ ノリコ 永射 紀子 〈令和6年4月〉		修士 (教育学)		日本語Ⅱ-B(記述) 日本語Ⅱ-C(読解) 日本語Ⅱ-D(会話) 日本語Ⅲ-B(記述) 日本語Ⅲ-C(読解) 日本語Ⅲ-D(会話) 医療福祉専門語彙	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6前	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 留学生別科 講師 (令2.4)	
63	兼担	講師	ナカノ シンヤ 中野 真也 〈令和6年4月〉		博士 (心理学)		雑談と傾聴-話す力と聴く力-	1・2・3・4・5・6後	2	1	国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マ ネジメント学部 講師 (令4.10)	
64	兼担	講師	イシイ キヨシ 石井 清志 〈令和6年4月〉		修士 (異文化コミュニケーション学)		福祉支援工学概論 国際医療保健学 異文化体験実習	1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後	2 1 1	1 1 1	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 講師 (平28.4)	

65	兼任	講師	カヤマ アキコ 亀山 晶子 〈令和6年4月〉		博士 (心理学)		コミュニケーション概論	1 前	2	1	国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マ ネジメント学部 講師 (令2.4)	
66	兼任	講師	タカシ マリコ 高石 麗理湖 〈令和6年4月〉		修士 (福祉社会 学)		保健医療福祉制度論	1・2・3・4・5・6後	2	1	国際医療福祉大学 医療福祉学部 講師 (令4.4)	
67	兼任	講師	ツルタ トシロウ 鶴田 利郎 〈令和6年4月〉		博士 (人間科学)		教育学 教育方法論	1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後	2 2	1 1	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 講師 (平30.4)	
68	兼任	講師	イシイ ヒデアキ 石井 秀明 〈令和6年4月〉		博士 (リハビリテーショ ン科学)		予防保健学	1・2・3・4・5・6後	1	1	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 講師 (令3.4)	
69	兼任	助教	ハバリミチ タカヒロ 登道 孝浩 〈令和6年4月〉		修士 (教育開発 学)		資格英語 1 (Primary) 資格英語 2 (Basic) 英語講読 3 (Intermediate) 英語講読 4 (Advanced)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後 2・3・4・5・6前 2・3・4・5・6後	1 1 1 1	1 1 1 1	国際医療福祉大学 総合教育センター 助教 (令5.4)	
70	兼任	助教	ヤマグチ マキ 山口 真葵 〈令和6年4月〉		修士 (日本語教 育)		日本語Ⅰ-A(文法・表現) 日本語Ⅰ-B(記述) 日本語Ⅰ-C(読解) 日本語Ⅰ-D(会話) 日本語Ⅱ-A(文法・表現) 日本語Ⅲ-A(文法・表現) 医療福祉専門漢字	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	国際医療福祉大学 留学生別科 助教 (令3.4)	
71	兼任	講師	トマツ ヨシハル 戸松 義晴 〈令和6年4月〉		文学 修士		宗教学 死生学-死を通して生を考える-	1・2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6前	2 2	1 1	浄土宗本蓮寺 住職 (昭60.3)	
72	兼任	講師	ナカミ マサヒロ 中臣 昌広 〈令和6年4月〉		理工学士		防災と生活デザイン	1・2・3・4・5・6前	2	1	オフィス環境未来塾 代表 (令4.4)	
73	兼任	講師	ヤマウチ タカシ 山内 則史 〈令和6年4月〉		文学士		文学論 演劇論	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	2 1	1 1	読売新聞社 (昭63.4)	
74	兼任	講師	オオハラ タケヒロ 大倉 健宏 〈令和6年4月〉		博士 (社会学)		社会学(人間と社会)	1・2・3・4・5・6後	2	1	麻布大学 生命・環境学部 教授 (平31.4)	
75	兼任	講師	カベ ナンティヤー 掛谷 ナンティヤー 〈令和6年4月〉		Master of Arts (フィリピン)		タイ語入門(会話含む) タイ語基礎(会話含む)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1	1 1	パークレイハウス語 学センター (令5.4)	
76	兼任	講師	イヅカ カヨ 飯塚 佳代 〈令和6年4月〉		学士 (生活造形 学)		手話入門	1・2・3・4・5・6後	2	1	手話通訳士 (平29.4)	
77	兼任	講師	ワシバ ユミ 鷺頭 小弓 〈令和6年4月〉		修士 (言語文化 学)		ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語基礎(会話含む)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1	1 1	慶應義塾大学 外国語教育研究セン ター アドバイザー兼サブ コーディネーター (令3.10)	
78	兼任	講師	ナリヤ アツシ 成家 篤史 〈令和6年4月〉		博士 (教育学)		健康科学理論 健康科学実践	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前	1 1	1 1	帝京大学 教育学部 教授 (平31.4)	
79	兼任	講師	トウザライ トゥザライン 〈令和6年4月〉		博士 (学術)		ビルマ語入門(会話含む) ビルマ語基礎(会話含む)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1	1 1	東京外国語大学 特任准教授 (平31.4)	
80	兼任	講師	マツムラ アヤ 松村 亜矢 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語基礎(会話含む)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1	1 1	一般社団法人東京外 語会 非常勤職員 (平27.4)	

81	兼任	講師	ワタベ トモカ 渡部 暢 〈令和6年4月〉		博士 (経済学)		経営の仕組み 組織運営管理論	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6前	2 2	1 1	茨城キリスト教大学 経営学部 助教 (令3.4)	
82	兼任	講師	マツヤマ タヒロ 松山 高大 〈令和6年4月〉		修士 (臨床心理 学)		臨床心理学概論	1後	2	1	国際医療福祉大学 成田病院こころの健 康相談室 相談員 (令3.4)	
83	兼任	講師	ニシカワ コウヘイ 西川 耕平 〈令和6年4月〉		修士 (哲学)		哲学	1・2・3・4・5・6前	2	1	慶應義塾大学 文学部 非常勤講師 (令4.4)	
84	兼任	講師	イ ユウジユ 李 有珠 〈令和6年4月〉		修士 (教育学)		韓国語入門(会話含む) 韓国語基礎(会話含む)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1	1 1	関東学院大学 非常勤講師 (令2.4)	
85	兼任	講師	ヒサノ マサタカ 久野 真隆 〈令和6年4月〉		修士 (哲学)		倫理学	1・2・3・4・5・6後	2	1	慶應義塾大学 文学研究科 研究助教 (平31.3)	
86	兼任	講師	タカ アイ 田中 藍 〈令和6年4月〉		学士 (栄養学)		食と人間	1・2・3・4・5・6後	1	1	なし	
87	兼任	講師	ヒナイ コウスケ 比内 晃介 〈令和6年4月〉		修士 (言語学)		フランス語入門(会話含む) フランス語基礎(会話含む)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1	1 1	なし	
88	兼任	講師	フェルナンデス ゴンザレス パウラ フェルナンデス ゴンザレス パウ ラ 〈令和6年4月〉		MASTER OF SCIENCE (イギリ ス)		英語会話1 (Primary) 英語会話2 (Basic) 英語会話3 (Intermediate) 英語会話4 (Advanced) スペイン語入門(会話含む) スペイン語基礎(会話含む)	1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後 2・3・4・5・6前 2・3・4・5・6後 1・2・3・4・5・6前 1・2・3・4・5・6後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東京大学 情報学環・学際情報 学府 留学生チューター (令4.9)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	6人	4人	3人	3人	16人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2人	1人	1人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	3人	人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	3人	2人	人	人	人	人	5人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	3人	7人	7人	5人	3人	3人	28人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）成田薬学部 薬学科

【学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）】

1. 「学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）」の「エA. 学生確保の見通しの調査結果」において、高校生を対象として実施したアンケート調査の結果を試算したところ、本学科の進学希望者数が185.7名となることを示した上で、入学定員を満たす入学者の確保は可能であることを説明しているが、185.7名のうち、実際に本学科への入学が見込まれると考えられる、進学意向として「進学したいと思った」と回答した者は56名となっており、入学定員120名の半数以下となっている。また、試算結果の185.7人には、進学意向として「併願校の可否によっては進学したいと思った」と回答した者(227名)のうち、本学科に「とても興味をもった」(65名)及び「興味をもった」(153名)と回答した者(218名)について、「2校から1校選ぶと想定し、2分の1を乗じる」と試算した109名を含めているが、この「2分の1を乗じ」た数の者が先述の実際に本学への入学が見込まれる者の56名と同程度と見なすことができる具体的な根拠について説明がなく、妥当であるとは判断できない。さらに、進学意向として「進学を検討してみたいと思った」と回答した者(514名)のうち、本学科に「とても興味をもった」(126名)及び「興味をもった」(371名)と回答した者(497名)について、「関東圏内に既存の国公立大学薬学部が23校、本学成田薬学部を併せて24校あるので、24校から1校を選ぶと想定し、24分の1を乗じる」と試算した20.7名を含めているが、地域性や学生納付金等が異なる中で、同一の確率で24校から1校を選ぶと想定することの妥当性に疑義があり、この20.7名が先述の実際に本学への入学が見込まれる者の56名と同程度と見なすことができるとは判断できない。これらのことから、示された分析方法や試算結果が妥当なものであるとは判断することができない。また、福岡薬学部薬学科の設置時に同様の分析方法を用いて行ったアンケート調査の結果を踏まえた試算結果と実際の入試結果を比較し、「アンケート時に試算した入学希望者を大きく上回る実志願者を集める結果となっている」ことを説明している。福岡薬学部薬学科と成田薬学部薬学科の両学科では競合する他大学の校数や、想定されている進学者の出身地域などの諸条件が相当程度異なることが想定されるが、福岡薬学部薬学科のアンケート調査の結果が成田薬学部薬学科にも適用することのできる根拠が説明されておらず、福岡薬学部薬学科におけるアンケート調査の試算結果と入試結果の比較をもって、成田薬学部薬学科の進学希望者を試算した分析方法が妥当であると判断することができない。このため、入学定員(120名)に対応した長期的かつ安定的な学生の確保を図ることができる見通しがあるとは判断できないことから、新たなアンケート調査を実施するなどにより、長期的かつ安定的に入学定員に対応する入学見込み者が存在することを、客観的かつ具体的なデータ等の根拠に基づき明確に説明すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(是正事項) 成田薬学部 薬学科

1. 「学生の確保の見通し等を記載した書類(本文)」の「エA. 学生確保の見通しの調査結果」において、高校生を対象として実施したアンケート調査の結果を試算したところ、本学科の進学希望者数が185.7名となることを示した上で、入学定員を満たす入学者の確保は可能であることを説明しているが、185.7名のうち、実際に本学科への入学が見込まれると考えられる、進学意向として「進学したいと思った」と回答した者は56名となっており、入学定員120名の半数以下となっている。また、試算結果の185.7人には、進学意向として「併願校の可否によっては進学したいと思った」と回答した者(227名)のうち、本学科に「とても興味をもった」(65名)及び「興味をもった」(153名)と回答した者(218名)について、「2校から1校選ぶと想定し、2分の1を乗じる」と試算した109名を含めているが、この「2分の1を乗じ」た数の者が先述の実際に本学への入学が見込まれる者の56名と同程度と見なすことができる具体的な根拠について説明がなく、妥当であるとは判断できない。さらに、進学意向として「進学を検討してみたいと思った」と回答した者(514名)のうち、本学科に「とても興味をもった」(126名)及び「興味をもった」(371名)と回答した者(497名)について、「関東圏内に既存の国公立大学薬学部が23校、本学成田薬学部を併せて24校あるので、24校から1校を選ぶと想定し、24分の1を乗じる」と試算した20.7名を含めているが、地域性や学生納付金等が異なる中で、同一の確率で24校から1校を選ぶと想定することの妥当性に疑義があり、この20.7名が先述の実際に本学への入学が見込まれる者の56名と同程度と見なすことができるとは判断できない。これらのことから、示された分析方法や試算結果が妥当なものであるとは判断することができない。また、福岡薬学部薬学科の設置時に同様の分析方法を用いて行ったアンケート調査の結果を踏まえた試算結果と実際の入試結果を比較し、「アンケート時に試算した入学希望者を大きく上回る実志願者を集める結果となっている」ことを説明している。福岡薬学部薬学科と成田薬学部薬学科の両学科では競合する他大学の校数や、想定されている進学者の出身地域などの諸条件が相当程度異なることが想定されるが、福岡薬学部薬学科のアンケート調査の結果が成田薬学部薬学科にも適用することができるとの根拠が説明されておらず、福岡薬学部薬学部におけるアンケート調査の試算結果と入試結果の比較をもって、成田薬学部薬学科の進学希望者を試算した分析方法が妥当であると判断することができない。このため、入学定員(120名)に対応した長期的かつ安定的な学生の確保を図ることができる見通しがあるとは判断できないことから、新たなアンケート調査を実施するなどにより、長期的かつ安定的に入学定員に対応する入学見込み者が存在することを、客観的かつ具体的なデータ等の根拠に基づき明確に説明すること。

(対応)

2023 年 6 月 20 日に大学設置・学校法人審議会大学設置分科会から出された審査意見「～入学定員(120 名)に対応した長期的かつ安定的な学生の確保を図ることができる見通しがあるとは判断できないことから、新たなアンケート調査を実施するなどにより、長期的かつ安定的に入学定員に対応する入学見込み者が存在することを、客観的かつ具体的なデータ等の根拠に基づき明確に説明すること」を受けて、以下のアンケート調査を追加で実施した。

調査対象

○対象となる生徒

2023 (令和 5) 年度 高校卒業予定者 (現高校 3 年生) 3,433 名、既卒者 99 名
高卒認定 1 名 合計 3,533 名

○対象となる地域

全国

○調査期間

2023 年 6 月 22 日～2023 年 7 月 3 日

○調査方法

本学の入学説明会やオープンキャンパス等への参加、あるいは大学関係資料の請求等により、本学の薬学部進学に関心がありメールアドレスを登録している者のうち、現高校 3 年生等に対して、Web によりアンケート調査を実施

当該追加アンケートの調査結果については下記のとおりであり、当初のアンケートと今回のアンケート結果により、本学成田薬学部への入学者は安定的に確保できるものと考えている。

なお、追加アンケートの調査結果については、学生確保の見通し(本文)に追加記載し、説明する。さらに、当該アンケート調査結果に加えて、「既設組織における取組(追加)」及び「競合校の状況分析(追加)」について、当初申請の内容と重複する部分もあるが、改めて追加記載し、説明する。【審査意見への対応の新旧対照表及び学生確保の見通し(本文)(13 頁～19 頁) 参照】

(説明)

アンケート調査の結果、アンケートの【質問 2】において、「成田薬学部」を受験して合格した場合の入学の意向を尋ねており、66 人(①)の者が「入学する」と回答した。また、「上位の志望校不合格の場合に入学する」と回答した者が 147 人いる。薬学部(大田原)の入学辞退率※は 61.2%であることを踏まえると、147 人のうち 90 人が入学を辞退(他大学へ進学等)するものの、57 人(②)が本学に入学を希望すると考えられる。

以上のアンケート結果を踏まえると、123 人(①+②)の入学希望者を見込むことができると考えている。

さらに、今回のアンケートは入学説明会や既設学部のオープンキャンパス等への参加者

等を対象として限定した範囲で実施したものであり、既設薬学部ではこのようなイベントに参加していない志願者・入学者も相当数存在している。このようなイベント不参加者からの入学希望者を推計※※すると 124 人 (③) となり、合わせると 247 人 (①+③) の入学希望者を見込むことができる。

なお、アンケートの【質問 3】において「成田薬学部」の志望動機を尋ねているが、最も回答数が多いのが「低額な学費、奨学金制度の充実」であり、続いて「薬剤師国家試験合格率の実績」である。後述 (I. 競合校の状況分析) するように、関東圏内において、最も低廉な学費及び最も高い国家試験合格実績 (薬学部 (大田原)) を誇っており、本学に入学する明確な動機と強い意志があると言える。

さらに、今回のアンケート対象者はほぼ高校 3 年生であり、高校 2 年生を対象として行った前記 A. のアンケート結果「進学したいと思った」と回答した 56 名よりも増加していること、受験年度に入り進路希望が 2 年次よりも固まり回答の精度が上がっていると思われること、から先述の入学見込み者はより確実性の高い数字であると言える。

以上の結果から本学成田薬学部への十分な入学見込み者が安定的に存在していることが明らかになったと考える。

(新旧対照表) 学生確保の見通し (本文) 13 頁～19 頁

新	旧
(エ 学生確保の見通し) G. 学生確保の見通しの調査 (追加) 2023 年 6 月 20 日大学設置・学校法人審議会大学設置分科会から出された審査意見「～入学定員 (120 名) に対応した長期的かつ安定的な学生の確保を図ることができる見通しがあるとは判断できないことから、新たなアンケート調査を実施するなどにより、長期的かつ安定的に入学定員に対応する入学見込み者が存在することを、客観的かつ具体的なデータ等の根拠に基づき明確に説明すること」を受けて、以下のアンケート調査を追加で実施した。 なお、追加調査に当たっては、文科省「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引」(令和 5 年 6 月 9 日更新版) に準拠しつつ、設問項目については今回の審査意見に直接関わる【受験希望の有無】及び【合格した場合の入学希望の有無】としている。 【資料 23】国際医療福祉大学「成田薬学部」進学希望状況アンケート	(追加記載) 学生確保の見通し、「F. その他, 申請者において検討・分析した事項」(13 頁) の後に、追加記載し説明する。

調査対象

○対象となる生徒

2023（令和5）年度高校卒業予定者（現高校3年生）
3,433名、既卒者99名、高卒認定1名 合計3,533名

○対象となる地域

全国

○調査機関

2023年6月22日～2023年7月3日

○調査方法

本学の入学説明会やオープンキャンパス等への参加、あるいは大学関係資料の請求等により、本学の薬学部進学に関心がありメールアドレスを登録している者のうち、現高校3年生等に対して、Webによりアンケート調査を実施。

○回答件数

302名（回答率8.5%）

○実施主体

国際医療福祉大学

調査結果

アンケートの【質問2】において、「成田薬学部」を受験して合格した場合の入学の意向を尋ねており、66人（①）の者が「入学する」と回答した。また、「上位の志望校不合格の場合に入学する」と回答した者が147人いる。薬学部（大田原）の入学辞退率※は61.2%であることを踏まえると、147人のうち90人が入学を辞退（他大学へ進学等）するものの、57人（②）が本学に入学を希望すると考えられる。

以上のアンケート結果を踏まえると、123人（①＋②）の入学希望者を見込むことができると考えている。

さらに、今回のアンケートは入学説明会や既設学部のオープンキャンパス等への参加者等を対象として限定した範囲で実施したものであり、既設薬学部ではこのようなイベントに参加していない志願者・入学者も相当数存在している。このようなイベント不参加者からの入学希望者を推計※※すると124人（③）とな

り、合わせると 247 人（①+③）の入学希望者を見込むことができる。

なお、アンケートの【質問 3】において「成田薬学部」の志望動機を尋ねているが、最も回答数が多いのが「低額な学費、奨学金制度の充実」であり、続いて「薬剤師国家試験合格率の実績」である。後述（I. 競合校の状況分析）するように、関東圏内において、最も低廉な学費及び最も高い国家試験合格実績（薬学部（大田原））を誇っており、本学に入学する明確な動機と強い意志があると言える。

さらに、今回のアンケート対象者はほぼ高校 3 年生であり、高校 2 年生を対象として行った前記 A. のアンケート結果「進学したいと思った」と回答した 56 名よりも増加していること、受験年度に入り進路希望が 2 年次よりも固まり回答の精度が上がっていると思われること、から先述の入学見込み者はより確実性の高い数字であると言える。

以上の結果から本学成田薬学部への十分な入学見込み者が安定的に存在していることが明らかになったと考える。

※入学辞退率 61.2%=合格辞退者（未手続者 216 を含む）数 298/追加合格 28 を含む合格者数 487（令和 5 年度入試）、成田薬学部は本学にとって関東圏内での薬学部（大田原）に次ぐ 2 つ目の薬学部であり、両学部で入学志願動向に極端な差異は見出しにくいことから、薬学部（大田原）の入試データを使っている。

※※薬学部（大田原）で昨年度開催したオープンキャンパス等のイベントに関して、参加者のうち入学者は 94 人、不参加者のうち入学者は 95 人、したがって 123 人（①+②）×95/94=124 人となる。

H. 既設組織における取組（追加）

続いて、本学既設薬学部における過去のオープンキャンパスや説明会等からの入学実績等を参考として示す。なお、この分析は、前記 G. 文科省設置審査の手引き（令和 5 年 6 月 9 日更新版）でも学生確保の説明の際に示すことが求められており、今回の審査意見への回答の傍証として掲げるものである。

2022 年度に実施した薬学部（大田原）のオープンキャンパスでは、参加者のうち高校 3 年生及び既卒者 1,307

人、うち薬学部志望者数 449 人（いずれも実人数）であり、さらに、薬学部志望者数のうち実際の出願者数 150 人（出願率＝出願者数/薬学部志望者数 33.4%）、合格者数 107 人（合格率 23.8%）、入学者数 94 人（入学率 20.9%）であった。 また、2023 年度の薬学部（大田原）の実際の入学志願者数は 1,086 人で、2022 年度オープンキャンパス参加者のうち薬学部志望者数 449 人の約 2.4 倍となっており、したがってオープンキャンパスに参加していない薬学部志願者が相当数いることが分かる。 本学ではオープンキャンパス等への参加から実際に入学するまでの間、一人一人の情報を一元的に管理し、入学者数予測の精度向上につなげる体制を構築していること、分野が医療福祉系に限定されていることから進路分析が行いやすい利点があること、などからオープンキャンパス等を経て実際に入学するコアな人数をある程度正確に予測している。成田薬学部でのオープンキャンパスは今後開催することとしているが、これまでの実績から十分な入学者確保は可能であると考えている。 I. 競合校の状況分析（追加） さらに、本学既設薬学部の競合校の状況分析を以下に示す。この分析についても審査意見への回答の傍証として掲げるものである。 （千葉県内での競合） 「成田薬学部」を設置する千葉県内には薬学部を設置する私立大学が 5 校ある。このうち、定員規模が同程度であり、学問分野に類似性があり、学力層も同程度と思われるいわゆる「競合校」としては、東邦大学薬学部及び日本大学薬学部が挙げられる。（他の 3 校のうち、東京理科大学は規模及び学問分野の面で、千葉科学大学及び城西国際大学は学問分野及び学力層の面で競合校とはしていない。） 東邦大学薬学部及び日本大学薬学部と本学が既に設置している薬学部（大田原）及び福岡薬学部（大川）との比較を以下の表に示す。	
--	--

これによると、本学と東邦大学及び日本大学では医療系学部を多数設置していること、安定的に志願者を確保していること、志願者の学力層にも大きな差がないこと、薬剤師国家試験合格率も上位を占めていること、など共通している部分が多い。 しかしながら、最も大きな違いを挙げるとするならば、学納金の額である。成田薬学部の学納金額は東邦大学薬学部と比較しても25%以上、日本大学薬学部との比較では30%近くも低く、価格競争力は極めて強いことが容易に想像できる。この学納金額は本学が設置している他の薬学部と同額であるが、薬学部学納金の額を全国でも最も低廉な額に設定しているのは、優秀な人材に高等教育の機会を広く提供し、優れた医療人材の育成に資するという本学の方針によるものである。薬学部の6年制への移行に伴い、修学期間中の学費負担が以前と比べて大幅に上がる問題点が指摘されている。成田薬学部では、低廉な学費に加えて本学独自の奨学金制度等による経済的負担の軽減、高い国家試験合格率からみたコストパフォーマンスの良さ及び複数の大学病院、数多くの関連病院及び医療施設との密接な連携によるきわめて高い就職率などにより、競合校と比べてもそんな色のない十分な志願者を確保できるものと考えている。 さらに成田薬学部では、成田キャンパスで学ぶ医学部生と同じ授業を受けることができる環境にあること、外国人留学生が多数存在する国際性に優れたキャンパス環境であること、国家試験合格率においても概ね本学が上位にあることなども競合校との比較優位点として挙げることができる。 【別紙1】1. 競合校比較 挿入 (関東圏内での競合) 本学薬学部（大田原）は、関東圏内にある私立大学薬学部21校のうち最も学費が低廉であること、また21校のうち入学定員が未充足の薬学部が7校ある中で、ここ10年間に限っても常に5～8倍以上の志願者がおり、安定的に入学定員を充足していることなどから、入学者確保について十分な実績があると言える。	
--	--

本学薬学部（大田原）と同じ関東圏内に開設する成田薬学部は、より立地条件（交通、都市部、施設等）がよく、より特色（国際性、医学部や病院等との連携）があるため、薬学部（大田原）を上回る十分な志願者を確保できると考えている。 【別紙1】2. 関東圏内にある私立大学薬学部の学費、入学定員充足率及び国家試験合格率の比較 挿入 （全国レベルでの競合） 薬学部は全国的に志願者数が多い学部である。2021年度の入試実績によると、全国の私立大学薬学部全体（58校2学部）の入学定員が11,401人に対し、入学志願者が73,592人であり、倍率は6.45倍となっている。（私立薬科大学協会調べ）近年入学志願者は減少傾向が続いているものの、国家資格である薬剤師資格が取得できるため、依然として十分な志願者が得られている状況にある。 こうした中、入学定員充足率が全国平均を大きく下回る大学も増加するなど、薬学部における入学者の確保は2極化の様相を呈しつつある。このような傾向が続いているため、文科省及び厚労省において薬学教育の在り方及び薬剤師の育成について量的規制を図ると同時に、質的向上を強化するための様々な方策が示されているところである。 今回開設する成田薬学部においては、このような状況を踏まえつつ、十分な競争力を確保すると同時に質の高い薬学教育を実現することができるものと考えている。本学では成田病院をはじめ複数の大学附属病院及び関連医療施設を有しており、手厚い臨床実習が可能となっている。成田薬学部においては現場に即したより実践的な教育を重ねることにより、医療現場での活躍が期待できる優秀な薬剤師の育成を目指しており、文科省及び厚労省における検討でも課題とされている病院薬剤師不足問題、いわゆる偏在問題解決に向けた貢献になるものと期待している。 加えて、本学は国家戦略特区の一つとして、成田市と共同して国際医療学園都市構想を提案し承認を受けている。その提案の中では、大学、病院、製薬・医	
--	--

療機器メーカーなど様々な医療関係機関と連携し、例えば創薬の分野においてはアジアをはじめとして世界に向けて輸出できる医薬品づくりを掲げており、本学は構想の実現を通じて医薬品に関する政府の国際展開をサポートする位置にある。今回の成田薬学部 of 設置は構想の重要なピースの一つとなっている。

本学薬学部（大田原）及び福岡薬学部（大川）では、開学以来入学定員を超える入学者を安定的に確保している。さらに受験生にとっては国家試験合格が最大の関心事であり、それゆえ国家試験合格率が大学選びの最大のファクターである薬学部において、本学薬学部（大田原）は最初の卒業生を送りだした 2011 年度以降、概ね全国上位の国家試験合格率を維持している。このような実績を踏まえると、本学が新たに設置する成田薬学部においてもこれまでと同様に十分な入学者を確保できるものと考えている。

【別紙 1】 3. 最近の薬剤師国家試験合格率推移（薬学部（大田原）） 挿入

【別紙 1】

1. 競合校比較※

項目	東邦大学 薬学部	日本大学 薬学部	国際医療福祉大 学薬学部	国際医療福祉大 学福岡薬学部
所在地	千葉県船橋市	千葉県船橋市	栃木県大田原市	福岡県大川市
入学定員（人）	220	244	180	120
志願者数（人）	2, 005	1, 398	1, 123	1, 097
志願倍率（倍）	9. 1	5. 7	6. 2	9. 1
入学者数（人）	241	293	189	129
入 学 定 員 充 足 率％	109. 5	120. 1	105. 0	107. 5
偏差値（マナビ ジョン調べ）	59	59	57	55
学費（千円）	12, 480	12, 700	9, 900	9, 900
国試合格率％	92. 21	83. 87	97. 81	（未完成）
大学が設置する 他学部	医学部、理学 部、看護学 部、健康科学 部	法学部、文理学 部、経済学部、 商学部、芸術学 部、国際関係学 部、危機管理学 部、スポーツ科 学部、理工学 部、生産工学 部、工学部、医 学部、歯学部、 松戸歯学部、生 物資源科学部	医学部、保健医療学部、医療福祉 学部、赤坂心理・医療福祉マネジ メント学部、小田原保健医療学 部、成田看護学部、成田保健医療 学部、福岡保健医療学部	
大学全体の入学 定員(人)	972	15, 137	2, 165	
外国人留学生数 (人)※※	16	9	120	

※いずれも令和4年度入学者及び令和4年5月1日現在

※偏差値：マナビジョン調べ（2023.6現在） <https://manabi.benesse.ne.jp/>

※入学定員、志願者数、入学者数、入学定員充足率：文部科学省 薬学部における修学状況等
2022（令和4）年度調査結果 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/1361518.htm

※志願倍率（志願者数/入学定員）

※国家試験合格率：厚生労働省医薬・生活衛生局 第107回薬剤師国家試験 大学別合格者数（新卒）
<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000916434.pdf>

※学費総額：日本私立薬科大学協会だより 第99号 令和4年6月

※※外国人留学生数はキャンパスごと（東邦大：習志野キャンパス、日大：薬学部キャンパス、本学：成田キャンパス）

【別紙 1】

2. 関東圏内にある私立大学薬学部の学費、入学定員充足率及び国家試験合格率の比較※

大学名	所在地	学費総額(千円)	入学定員充足率	国家試験合格率
国際医療福祉大学	栃木県	9,900	105.0	97.8
東邦大学	千葉県	12,480	109.5	92.2
日本大学	千葉県	12,700	120.1	83.9
東京理科大学	千葉県	12,570	98.0	90.1
城西国際大学	千葉県	12,496	43.8	42.3
千葉科学大学	千葉県	11,820	50.0	56.5
高崎健康福祉大学	群馬県	11,680	111.1	88.0
日本薬科大学	埼玉県	13,800	60.6	80.7
城西大学	埼玉県	12,626	97.6	80.7
明治薬科大学	東京都	12,240	107.7	91.9
星薬科大学	東京都	11,980	111.5	87.8
帝京大学	東京都	12,879	108.4	88.6
帝京平成大学	東京都	12,530	103.5	73.5
武蔵野大学	東京都	12,451	104.1	86.7
昭和薬科大学	東京都	12,290	105.8	86.1
東京薬科大学	東京都	12,040	109.8	94.3
北里大学	東京都	12,600	101.9	86.4
昭和大学	東京都	12,000	100.0	94.2
慶應義塾大学	東京都	13,460	99.3	87.3
湘南医療大学	神奈川県	12,030	50.8	(未完成)
横浜薬科大学	神奈川県	14,100	109.7	81.2

※学費総額：日本私立薬科大学協会だより 第99号 令和4年6月

※実質競争倍率（受験者数／合格者数）：文部科学省 薬学部における修学状況等 2022（令和4）年度調査結果

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/1361518.htm

※入学定員充足率（入学者数／入学定員）：文部科学省 薬学部における修学状況等 2022（令和4）年度調査結果

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/1361518.htm

※国家試験合格率：厚生労働省医薬・生活衛生局 第107回薬剤師国家試験 大学別合格者数（新卒）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000916434.pdf>

3. 薬剤師国家試験合格率推移（薬学部（大田原））

年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
本学	99.1%	99.1%	97.0%	97.3%	97.8%	98.6%	97.8%	92.8%
全国	76.9%	71.6%	70.6%	70.9%	69.9%	68.7%	68.0%	69.0%